

第77回済生会学会
令和6年度済生会総会
愛媛（松山病院担当）

済生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1150



4

April 2025

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂

Shigeru Sumitani



なぜ少子化は止まらない

199

昨年11月、6年ぶりに福祉調査のため韓国を訪問した。これで6回目の訪問になるが、最近のソウルなど大都市の発展は、目覚ましい。「こんなに大きなビルがたくさんできたのか」と金浦空港からホテルへのタクシーの中から林立する高層ビルに

自分が引き付けられた。同行した現地事情に詳しい人は、「高層ビルは、分譲マンション用のものも多い」と説明してくれた。日本と同様に分譲価格は、高額だという。それでも完売されていく。しかし、購入で生きる恵まれた人がいる一方、適

切な仕事に就けず生活に困窮する人も多いのが、韓国の現実である。所得格差が拡大している。このため将来への希望が持てない人が多くなり、結婚できない人が増えている。昨年の韓国の合計特殊出生率は、OECDで唯一「1」を下回り、0・75である大きな理由である。

でも他人事ではない。日本でも厚労省が令和6年の出生数は、72万人と9年連続減少で過去最少になったと2月に発表したばかりである。

☆ ☆

国は、令和5年12月、「こども未来戦略」と題した少子化対策を策定し、少子化を止めると意気込んだ。策定時から3年間を集中取組期間に設定して、各年度3・6兆円という巨額な予算で開始された。

しかし、私は、「こども未来戦略」は、ちょっと的を外している。これまで本欄や一般の新聞紙上で警告を発してきた。「効果を上げるには時間が要する」という声が聞こえるが、初年度の状況が今後の趨勢を暗示している。

実施された具体的な対策の大

半は、すでに子どものいる家庭に対する児童手当や保育サービス等の金銭やサービスである。対象者は、少子化対策の恩恵を実感できただろう。だから本来であれば、少しは少子化の歯止めの前兆くらいは感じられてもよかつたはずだ。

なぜ効果が表れないのだろうか。少子化の最大の理由は、韓国と同様に結婚したくてもできない低所得の人が増加したことにある。総務省の調査でも正社員の30～34歳の男性の6割が結婚しているのに対しても、非正規の場合は2割に過ぎない。一番肝心のこの分野に対する施策が全く不十分である。

もう一つの大きな理由は、アソコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）が根強いことである。「家事や育児は女性が担当」という伝統的な家族観が女性に結婚を躊躇させる。地方ほどこの傾向が強く、女性の転出を増加させる。韓国も同様な事情がある。

国は、この2点についてもと力点を置かなければ、少子化ストップの日は、蜃気楼のように遠ざかっていくばかりだ。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。
済生会は長い歴史で醸成された価値を大切にして、時代の変化に適応していくなければならない。

\think!



\sync!

知る・見つける・支える

ソーシャル インクルージョン

Social Inclusion シンク！

ソーシャルインクルージョンを
多くの人々に知ってもらうための
ウェブメディアです。

サイト名は「知る・見つける・支える ソーシャルインクルージョン」。

愛称の「シンク！」は、social inclusionから名付けました。

think (思いを巡らせる)、sync (共感する、シンクロする) という意味も込めています。

済生会内外のさまざまな活動の記事を通して、ソーシャルインクルージョンの実現を目指す人々の思いを知り、共感し、そして仲間になってほしい。

それが済生会の思いです。

知る・見つける・支える
ソーシャル
インクルージョン
Social Inclusion シンク！



社会福祉法人 恩賜財団 済生会

〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビルディング21階
TEL: 03-3454-3311(代)
Email: headoffice@saiseikai.or.jp

[https://www.socialinclusion.
saiseikai.or.jp/](https://www.socialinclusion.saiseikai.or.jp/)



topics★コンシェル

「済生」のエンジン(原動力)は後半にあり!! 質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。済生コンシェルジュがおすすめする記事をご紹介します。

The latter half of this magazine is covered with a rich forest of treasurable articles. What will you discover there?

P92

〈兵庫〉小規模特養なでしこ神戸が開設した年から15年間、ボランティアとして活動する田渕一郎さんを紹介します。

P85

セイコーエプソンによる「ゆめ水族館」が静岡済生会療育センター令和で開かれ、利用者・地域住民と一緒に映像として映し出された魚を追いかけたりして楽しみました。

〈富山〉高岡病院のMSWが講演で無料低額診療事業や身寄りなし問題などの取り組みを行政書士に解説しました。

[おすすめPOINT] 参加者が「近くに済生会があればいいのに」と話していたとのこと。“誰一人取り残さない”活動をさまざまな人がつながって活動する大切さを改めて感じました。

P46

SAISEI April 4

表紙のことば

小さな花の集まりは、小さな春の命を育む

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

見たことはありますか? 「葱坊主」。春の畑で喜びを満喫しているような坊主頭は小さな花の集合体。蜂も蝶も訪れます。長葱の匂いは魔除けになると云われ、この葱坊主の蕾は神社や橋の欄干の飾り「擬宝珠」の由

来にもなっているとか。そんな蕾はとても美味しいようです。開花の前に葱は収穫されます。誇らしげに元気に花を咲かせ残された坊主たちは未来に命をつなぐ種を残します。



巻頭コラム 漢文の不易流行論

なぜ少子化は止まらない 理事長 炭谷 茂

03

topics★コンシェル

表紙のことば 久保田真由美

05

ソーシャルインクルージョン

30

TOPICS

42

大雑報

90

済生 SAISEI

CONTENTS

APRIL, 2025

NEWSな済生人

地域医療再編(後編)

医療再編は大きな病院をつくるだけでは完結しない。医療機関の連携・運動が不可欠
(新潟)三条病院 院長 06

坂内 均さん

第77回済生会学会/ 令和6年度済生会総会 愛媛(松山病院担当)

人材確保・人財育成で SDGs

総裁 秋篠宮皇嗣殿下のおことば 12/潮谷義子
会長挨拶 14/学会・総会プログラム 15/来賓
祝辞・来賓紹介 16/2849人に栄えある表彰 18
/被表彰者代表謝辞 21/学会概況報告十期
学長挨拶 22/済生会令和賞 23/済生会研
修医のための合同セミナー 24/四役会議等+
臨床研修管理担当者研修会 25/学会・総会ア
ルバム 26/懇親会 28

連載 機関誌「済生」が創刊100年!

この人 藤堂日向

36

口福にっぽん 吉井省一

38

だれでもかんたんてづくりおもちゃ いまいみさ

40

題字協力: 石飛博光

アートディレクション: OVO INTERNATIONAL

三条病院のある新潟・県央地域（三条市、燕市など人口約22万人）の医療は2024年3月に済生会新潟県央基幹病院が開院したことで大きく変わりました（3月号に連載記事）。地域密着型病院として他の医療機関と連携し地域に安定した医療の提供を目指す三条病院院長の坂

内均さんにとっての1年を振り返ってもらいました。
（三重・明和病院 済生記者 藤岡拓人）
医療再編によって三条病院の役割はどのように変わりましたか。

藤岡 医療再編によって三条病院は急性期医療、坂内 新設された県央基幹病院は急性期医療、

医療再編は大きな病院をつくるだけでは完結しない。医療機関の連携・連動が不可欠

坂内 均さん
〈新潟〉三条病院 院長

地域医療を支えるために住民の理解と協力も重要



済生会三条訪問看護ステーションも「三条市家族介護支援事業」で住民の認知症予防や運動機能の維持・改善活動を実施

坂内 基幹病院の新設と既存病院の機能転換という大きな改革を前に、県央基幹病院の母体である燕労災病院・厚生連三条総合病院と、地域密着型の病院となる県立吉田病院・同加茂病院・当院、さらに地域の医療機関の院長が再編について協議を重ねました。しかし、

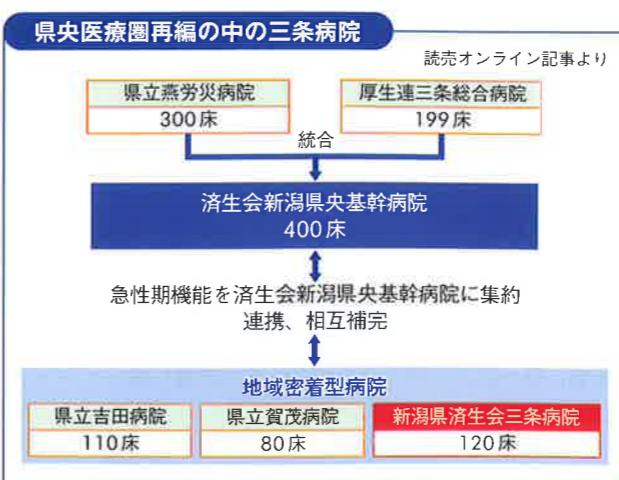
左はインタビューの藤岡さん

新病院の開院まで5ヶ月に迫った2023年10月頃の時点でも、地域住民には情報が伝わっていないかった印象がありました。その要因はなんだったのでしょうか。坂内 地域医療の再編には、病院側と住民側が共通認識を持つことが欠かせませんが、そのための広報活動が十分に行なわれなかつたために、当院の立ち位置が伝わらず、住民、患者さんが戸惑っている状況でした。藤岡 「かかりつけの病院はどうなるのか……」という患者さんや住民の不安が想像できます。

坂内 「外来患者さんの中には当院がなくなるのではないか」とか、「県央基幹病院に吸収されるのではないか」と、診察時に心配そうに尋ねる人もいました。同じ地域に済生会の病院が新しくできることで不安に思われるのではないか」と、説明をしたのですか。坂内 県の地域医療構想に基づく医療再編により、当院の医療提供体制が変わることを説明しました。新しい診療体制は「日常の身近な外来・入院診療を行なう」「入院診療と合わせて重症化予防を行ない入院の長期化を防ぐ」「退院後も地域で安心して生活できるよう住宅復帰および在宅療養を支援していく」と伝えました。

藤岡 具体的な役割が示されています。坂内 また、救急対応は平日日中のみで、軽症患者さんが中心になること、県央基幹病院と連携して、回復期の患者さんの転院先になることを改めてアナウンスしました。

NEWSな済生人 Interview



人材育成という大きな役割を担っています。当院は元より地域の医療機関や福祉施設との関係が強く、施設・在宅復帰のための退院調整も重要な役割となっています。かかりつけ病院として一部の急性期医療を行ないます。健診もこれまでのように行なっていきます。

藤岡 機能分担と連携が進められているのですね。

坂内 当院は元より地域の医療機関や福祉施設との関係が強く、施設・在宅復帰のための退院調整も重要な役割となっています。かかりつけ病院として一部の急性期医療を行ないます。健診もこれまでのように行なっていきます。

藤岡 医療再編に向けて準備は順調に進みます。

※写真撮影時のみマスクを外しています

NEWSな済生人 Interview

済生会はあらゆる方々に分け隔てなく
医療と福祉を提供する



藤岡 病院が存続することが分かれば、ま
ずは一安心ですね。

坂内 患者さんや住
民の漠然とした不安
や疑問は、「通院し
続けることはできる
か」「かかりつけ医
にしているが、休日
や夜間に具合が悪く
なった場合はどうし
たらしいか」「他の医
療機関で手術が必要
と言われたが（当院
で）受けることはで
きるか」など、より
具体的な質問に変わ
りました。

藤岡 住民への認知
が進んできた表れで
しょうか。

坂内 住民へは「地
域密着型病院は画像
検査や内視鏡治療が
必要な患者さんの診
療を行ない、状況に
応じて地域のクリニック
などを紹介します」
「当院にかかりつけの患者さんも三条市応急診療所や県
央基幹病院に受診してもらいます」「内視

藤岡 住民への認知
が進んできた表れで
しょうか。

坂内 市長へは「地
域密着型病院は画像
検査や内視鏡治療が
必要な患者さんの診
療を行ない、状況に
応じて地域のクリニック
などを紹介します」
「当院にかかりつけの患者さんも三条市応急診療所や県
央基幹病院に受診してもらいます」「内視

坂内 近年、医療依存度の高い高齢者が増
えている印象があります。今後は長期療養
の医療と日常生活の介護を一体的に行なう
「介護医療院」の需要が増していくと見て
います。国が推進する地域包括ケアシステム
は、患者は最終的には自宅に戻って、デジタル
技術を駆使して医療・介護サービス
を受けることを狙っていますが、理想と現
実のギャップは大きいと実感しています。
藤岡 医療とDX（デジタルトランスフォ
ーメーション）の相性はどのように考えま
すか。

坂内 業務効率化を目指したDXがさまざ
まな業界に大きな変化をもたらしています
が、医療はデジタルでは代用できない、人
肌の感覚が欠かせません。国はその観点

地元の障がい者施設を訪問、利用者の健康診断を行なう

「グー」と「パー」を使ってリズムよく手を動かす
体操では脳を鍛え認知症を予防する

小学生を対象とした「病院お仕事体験ツアー」。エコ体験をした児童は「人の
体の仕組みがよく分かった」と話していた（右写真）。左は鶏肉を電気メスで切
る模擬手術体験

鏡による手術、外来でできる治療は受け
ることができます」と返答し理解してもらい
ました。医療再編は地域医療を支えるため
に病院と住民の双方にとって重要です。そ
こに混乱が生じてはいけません。

坂内 主に誤嚥性肺炎など呼吸器系疾患の
リハビリや退院調整、心不全など入院が長
引く可能性ある患者さんや高齢で全身状
態がすぐれない患者さんを受け入れていま
す。

藤岡 病院間の情報伝達はどうですか。
県央基幹病院からの患者情報はかな
り詳細であるため、受け入れ側として万全
の態勢をとることができます。将来的には
地域の連携病院が県央基幹病院のベッドコ
ントロールの情報などをリアルタイムで把
握できるようになり、患者情報もオンライン
で迅速にやり取りができるようになれば
いいですね。

坂内 县央基幹病院は臨床研修を行なつ
てきました。昨年4月から県央基幹病院は臨床研
修基幹病院として9人の医師が臨床研修を
始めました。

藤岡 この地域も医師の高齢化、医師不足
が深刻ですが、若手医師の育成が可能にな
れば、医師確保にも期待が膨らみます。回
復・慢性期の病院であり、介護施設も併設
する当院としても臨床研修プログラムの役

坂内 この地域も医師の高齢化、医師不足
が深刻ですが、若手医師の育成が可能にな
れば、医師確保にも期待が膨らみます。回
復・慢性期の病院であり、介護施設も併設
する当院としても臨床研修プログラムの役

藤岡 昨年4月から県央基幹病院は臨床研
修基幹病院として9人の医師が臨床研修を行なつ
てきました。昨年4月から県央基幹病院は臨床研
修基幹病院として9人の医師が臨床研修を行なつ
てきました。

坂内 この地域も医師の高齢化、医師不足
が深刻ですが、若手医師の育成が可能にな
れば、医師確保にも期待が膨らみます。回
復・慢性期の病院であり、介護施設も併設
する当院としても臨床研修プログラムの役

で政策を進めてもらわねばと思います。

藤岡 「なぜ全国で医療再編が必要なのか」。
県央基幹病院と三条病院を取りましてさまで
まな気づきと学びがありました。

坂内 医療再編は大きな病院をつくるだけ
では完結しません。

藤岡 地域の医療機関が
各々の役割を担い、
互いに連携・連動
することが重要で
す。一方で基幹病
院ができる、近く
で受診しやすくな
つたとか、大きな
病院に行けば何で
も診てもらえると
考える人もいます。

坂内 まだ正しい
認識が浸透してい
ないと。

藤岡 その狙いは、
行政との連携
はどうですか。
坂内 今後の重要な
課題です。この地域
には福祉施設が多く、
自宅での患者ケアは
あまり積極的に行な
われていません。今
後、行政と連携して
在宅医療、訪問診療
を推進していくべき
と考えています。

坂内 本来は県央
地域の医師会が運
営する応急診療所
で一次救急を行な
う

【取材を終えて】

藤岡 「医療再編は地域医療を支えることが目的。
大きな病院をつくるだけでなく各医療機関
が連携・連動することが重要。そして病院
と住民による共通認識が不可欠」と坂内院

に立てることがあると思います。

藤岡 新体制で1年が経過しました。今回
の医療再編をどのように評価しますか。

坂内 医療を提供する側と受ける側で評価
は違いますが、前者の視点だと当院は産婦
人科と小児科が県央基幹病院に移転したこ
とで患者数が減りました。これら手術機能
の移行により収益は低下したのですが、組
織をスリムにして採算を上げるにしても、
病院機能を維持していくうえで必須の部分
があります。そこを削減すれば医療の質の
低下につながります。

藤岡 経営路線も方向転換が必要になります。
病院機能を維持していくうえで必須の部分
があります。そこを削減すれば医療の質の
低下につながります。

坂内 モチベーションを保ちながら収益性
を上げるのは難しいかもしれません。今
後安定した病院経営のために知恵を絞つ
ていきます。

藤岡 どのようなことが考えられますか。
例えば、健康診断の二次検診の受け
入れ拡充はその一つです。近年、超音波検
査で臍臍などに見つかった囊胞の精密検査、
便潜血の大腸内視鏡検査などが増えています。
市内に新しくできた健診センター（県
央健診スクエア）が、従来、燕労災病院や
厚生連三条総合病院で行なっていた健診の
受け皿になり、そこで二次検診が必要な受
診者の検査を当院で実施しています。

坂内 例えば、健康診断の二次検診の受け
入れ拡充はその一つです。近年、超音波検
査で臍臍などに見つかった囊胞の精密検査、
便潜血の大腸内視鏡検査などが増えています。
市内に新しくできた健診センター（県
央健診スクエア）が、従来、燕労災病院や
厚生連三条総合病院で行なっていた健診の
受け皿になり、そこで二次検診が必要な受
診者の検査を当院で実施しています。

藤岡 地域の診療所、クリニックとの連携
もこれまで以上に重要になりますね。

坂内 開腹手術が必要な患者は県央基幹病
院に紹介されますが、内視鏡を使った治療
や、軽度の誤嚥性肺炎や尿路感染症などの
う仕組みになっていますが、救急に対する
啓発不足もあってか、それを飛び越えて県
央基幹病院に直接受診される患者さんもい
ます。限られた医療資源の適正利用が望ま
ることが重要なのです。

坂内 医療機関は県央地域で医療を提供す
る。患者さんは住
み慣れた地域で医
療を受けることが
できる。医療を提
供する側と受ける
側のお互いが医療
再編を考え、理解
する必要がありま
す。

坂内 最後に三条
病院はどうあるべ
きですか。

坂内 当院はあら
ゆる方々に分け隔
てなく医療・福祉
を提供する——。済
生会の理念にい
ささかの搖るぎも
ありません。



三条病院のロビーにて

長は話していました。三条病院ではすれ違
う職員全員が挨拶するとても良い雰囲気で
した。これからもより良い医療・福祉を提
供し続けると確信しました。（藤岡拓人）



人材確保・人財育成で SDGs

第77回済生会学会

令和6年度済生会総会

令和7年2月15・16日／愛媛（松山病院担当）

第77回済生会学会・令和6年度済生会総会が

2月15・16日、愛媛県県民文化会館・愛媛看護研修センターで開かれた。

愛媛での開催は23年ぶり、松山病院が担当するのは初めて。

「人材確保・人財育成でSDGs」をテーマに全国から約2400人が参加。

学会・総会に合わせ、四役会議等、臨床研修管理担当者研修会、

済生会研修医のための合同セミナーなども開催された。

松山市庁前の交差点から松山城を望む。春は桜の名所として花見客でにぎわいます。路面電車は明治から昭和にかけて運行されていた蒸気機関車をモデルにした「坊ちゃん」列車も観光客に人気です。

総裁 秋篠宮皇嗣殿下



本日、「令和6年度恩賜財團済生会総会」が、来賓ならびに全国の済生会支部および施設から多数の参加を得て、ここ松山市において開催されますことを誠に喜ばしく思います。

済生会は、明治44年、1911年に明治天皇の済生勅語により創立されました。爾來、本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力によって、今日では日本最大の医療・福祉団体となり、全国各地で医療・保健・福祉の総合的なサービスを担つております。

ここ愛媛県内においては、済生会松山病院をはじめ四つの病院と診療所が地域に根差した、患者にやさしい医療を展開しています。そして、介護老人保健施設や特別養護老人ホームなど、多くの施設が活動しており、各施設の職員の方々は、昼夜を問わず、地域の医療と福祉の推進に懸命に取り組んでおられます。

また、瀬戸内海では、私も以前に視察いたしました

が、日本で唯一の巡回診療船「済生丸」を運行してお

ります。瀬戸内の島々を巡りながら、診療と予防医療を提供し、離島で暮らす人々の健康管理に尽力しています。

さて、この1年間を振り返りますと、昨年元日に石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生しました。その際には、発災直後より、済生会金沢病院が、地域住民の避難と被災患者の受け入れを行い、各病院のDMA-T隊は、直ちに被災地に入り災害支援活動を行いました。私は、1月と2月に現状報告を受け、2月には、金沢病院を訪問しました。被災患者の受け入れが金沢病院に集中する中で、全国の済生会病院より看護師をはじめとする本会の職員が応援に入り、多くの被災患者の受け入れを行うことが出来たこと、そして、済生会が一致団結して災害対応に取り組んだことに深い感銘を受けました。

また、昨年9月には、JR大阪駅周辺地区に移転・新設された大淀南医療福祉総合施設を視察しました。新しいまちづくりに向けて取り組んでいる同地区で、この施設が乳児院、特別養護老人ホーム、リハビリテーション病院、看護学校との連携を図り、済生会独自の地域包括ケアシステムを開拓していくことを期待しています。

済生会は、今日にいたるまで、多くの役割を担つてきておりますが、これは、今後さらに増大するものと思います。『施薬救療』の精神という搖るがない理念の下、全ての役職員が一丸となつて地域住民の健康と暮らしを支えるため、その使命を果たしていくことを希望いたします。

おわりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの関係者の多年のご尽力に対し、心より敬意と感謝の意を表します。そして、皆様が今後とも健康に留意されながら活躍されることを祈念し、総会に寄せる言葉といたします。

来賓祝辞

「いのち」に寄り添い、地域社会を支える 済生会の理念「施薬救療」の精神の下



日原知己・厚労省社会・援護局長

福岡資磨・厚生労働大臣（代
読：厚労省社会・援護局長の日
原知己氏）、中村時広・愛媛県
知事、野志克仁・松山市長がそ
れぞれ祝辞を述べた。

福岡大臣の祝辞を代読した日
原局長は済生会は設立以来、「施
薬救療」の精神の下、「生」を
「済」う「済生」として「無料低

額診療事業の実施」「なでしこ
プランの取り組み」「ソーシャ
ルインクルージョン推進計画」
など地域医療や福祉の拠点とな
り地域社会の発展に貢献、常に
社会情勢に目を配り、時代のニ
ーズに応じた事業の展開を続け
ていると敬意を表した。加えて、
单身世帯の増加や社会的孤独・

離島やへき地医療の充実に貢
献していることについて感謝



野志克仁・松山市長

孤立といった社会福祉を取り巻
く環境が変化し、福祉ニーズが



中村時広・愛媛県知事

複雑化・複合化する中で、制度
や分野を超えて地域住民や多様
な主体が互いに支え合い、「地
域共生社会」を実現するために、
済生会には医療・福祉といった
広い分野での実績と歴史と伝統
に培われた実力を存分に發揮さ
れるよう述べた。

中村知事はコロナ禍において
病床がひっ迫する中、済生会
が直ちに対応したこと、日
ごろは診療船「済生丸」による

来賓紹介

司会 ご来賓の皆様をご紹介させていただきます。愛媛県
医師会会长・村上博様、松山市医師会会长・矢野誠様。本
日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。



左から日原氏、村上氏、中村氏、矢野氏、野志氏



道後温泉本館。1994年に国の重要文化財に指
定された。塔屋の上の白鶴は本館のシンボル

を述べた。能登半島地震発生時の被災地へのDMAT派遣やJMATへの協力等済生会の対応についても敬意を表した。また、愛媛県が2024年3月に策定した「第8次愛媛県地域保健医療計画」に基づき、災害時医療の充実・強化や新たな感染症に備えた体制の整備、医師・看護師等の医療従事者の育成・確保等、医療資源を有効活用し、地域のニーズに応じた医療提供体制の構築に向け協力を求めた。野志市長は済生会が医療・福祉・保健分野について積極的に活動し、公衆衛生向上に努めていること、松山病院が松山医療圏域の中核病院として二次救急輪番病院の役割を担っていること、離島での巡回検診や健康教室の開催など地域に根ざした活動を通して市民の健康と医療の向上に努めていることに感謝の意を述べた。その上で市が関係機関と連携して、市民が笑顔で幸せを感じてもらえるまちづくりに協力を求めた。

2849人に 栄えある表彰

済生会の発展に尽力した職員の表彰が行なわれた。名誉会員2人、有功会員1人、功労会員4人、功労会員の看護職に授けられる賞水賞7人、30年以上勤続3

79人、20年以上勤続824人、10年以上勤続1632人の合計2849人。

上勤続 名誉会員と有功会員には秋篠宮眞紀親王が出席され、表彰状を授与されたほか、功労会員には秋篠宮眞紀親王が謝辞を述べた。

員、賞水賞、各永年勤続の代表者には潮谷義子会長から表彰状が手渡された。被表彰者を代表して（愛媛）松山病院院長の宮岡氏が謝辞を述べた。

功労会員



高畠ひろこ
（岡山）吉備病院
診療部長



佐藤一郎
兵庫県済生会
参与



佐藤千代子
（福井）特別養護老人ホーム聖和園
園長



中口暁雄
（埼玉）鴻巣医療福祉センター
地域支援事業本部長

有功会員



林亨
（大阪）千里病院
名誉院長



宮岡弘明
（愛媛）松山病院
院長



高田和明
（岡山）特別養護老人ホームみなみがた荘
施設長

名誉会員

79人、20年以上勤続824人、10年以上勤続1632人の合計2849人。

上勤続 名誉会員と有功会員には秋篠宮眞紀親王が出席され、表彰状を授与されたほか、功労会員には秋篠宮眞紀親王が謝辞を述べた。

賞水賞



中島あゆみ
（埼玉）鴻巣病院
医療安全管理室室長



森口由紀子
（栃木）宇都宮病院看護専門学校
教務課長



岡崎直子
（岡山）吉備病院
副看護部長

前川孝子
（和歌山）有田病院
看護部長



黒沼幸恵
（山形）山形済生会病院
看護部業務顧問



脇和枝
（福井）福井県済生会病院
看護副部長

清水浩美
（福井）福井県済生会病院
看護副部長



永年勤続表彰

10年以上勤続
(1632人)



20年以上勤続
(824人)



30年以上勤続
(379人)



被表彰者代表謝辞
済生会の歴史・伝統を生かし、
済生会ブランドをさらに向上させる



〈愛媛〉松山病院院長

宮岡 弘明

〈愛媛〉松山病院院長の宮岡弘明氏が被表彰者を代表して、次のような謝辞を述べた。

私は昭和56年に鹿児島大学医学部を卒業、故郷の愛媛県に戻り、平成4年に松山病院に入職、26年から院長を務めている。

当院は松山二次医療圏の救急患者を積極的に受け入れ、コロナ禍では早期から患者を受け入れた。公的病院としての当院の使命を果たすためにご協力をいたいた関係機関や医師会、病院スタッフの皆さんに、深く感謝する。

済生会は恵まれない方々に医療・福祉を通じて社会貢献をするという崇高な精神に基づき、各都道府県の本会施設が無料低額診療事業や生活困窮者支援事業「なでしこプラン」に取り組んでいる。岡山・広島・香川・愛媛の4支部では瀬戸内海巡回診療事業「済生丸」事業に従事。

今回の栄誉を励みとし国民の健康、幸せのために貢献し続ける。



道後温泉駅前の坊っちゃんカラクリ時計（左）と道後温泉本館東側にある漱石坊っちゃん之碑

〈北海道〉小樽病院
院長

和田 卓郎

〈島根〉江津総合病院
名誉院長

堀江 裕

〈佐賀〉唐津病院
院長

園田 孝志



学会概況報告・次期学会長の挨拶

第77回学会長で〈愛媛 松山

報告を、第78回学会を担当する

病院の宮岡弘明院長が学会概況

滋賀県病院の三木恒治院長が次

期学会長の挨拶をした。概要は以下のとおり。

「働き方改革」
医療生産性の効率化を求めて
2月14・15日、滋賀・大津市で

一般演題505題。人材に焦点をあて、
済生会のさらなる交流と連帯の一助を願う

成③さまざま

まな職種に

おける病院

経営への積

9の合計505題の発表があつた。

極的な取り組みの3題を実施し

た。全国から約2400人が参

加、口頭196、ポスター30

9の合計505題の発表があつた。

俳句済生会や蛇口からみかん

ジユースなど松山の雰囲気を感

じてもらう企画も実施、コング

レスバッグは、能登半島地震で

被災された石川県を支援するた

め同県の業者に依頼した。

谷義子会長。ご来賓の皆さま、

全国の済生会職員に心から感謝

する。学会運営に尽力した松山

医療・福祉センターの職員には

心から拍手を送る。本学会の成

果が皆様の明日につながること

を願う。

ご臨席の秋篠宮皇嗣殿下、潮

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

S」とした。

はじめに相澤

病院ブランドアンバサダーの小

平奈緒氏が「知るを愉しむ」と

題した基調講演が行なわれた。

シンポジウムは①医療施設での

人材確保・人財育成②福祉施設・

介護施設での人材確保・人財育

会全体が知恵を出し合うために

「人材確保・人財育成でSDG

済生会研修医のための合同セミナー

指導者の役割を学ぶ

2月15日に愛媛県県民文化会館で済生会研修医のための合同セミナーが開かれた。

「臨床教育の未来と我々の実践～教育の済生会の充実に向けて～」をテーマに、本会病院1年目の研修医284人と研修責任者（指導医）37人が出席した。済生会学会・総会に合わせて開催しているもので、研修医の交流を深めている。

進行は企画責任者で（栃木）宇都宮病院の泉学・総合診療科主任診療科長（医師臨床研修専門小委員会委員）。本部

松原了理事の挨拶に続き、船崎俊一・済生会保健・医療・福祉総合研究所・担当顧問が「学ぶ側から教える側へ」と題し講演した。

グループワークで研修医は研修責任者がサポートする中、指導者としての役割を学んだ。グループワークの成果は済生会総研が集計・解析を行なう予定。

恒例のレジデント企画・当院の臨床研修では、研修医が自院の研修の魅力をプレゼン。研修責任者の投票の結果、優勝の（愛媛）松山病院、準優勝の熊本病

院、3位の（北海道）小樽病院に賞状と記念品が贈られた。
(済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課)

四役会議等



病院長、事務（部）長、看護部長、福祉施設長、薬剤部長が集まる会議が2月15日、ANAクラウンプラザホテル松山などで開かれた。

福祉施設長会議後は①老人保健施設②老人福祉施設③障害者施設④訪問看護ステーション⑤乳児院の分科会を実施。昨年に続き診療放射線技師長会も開かれた。

臨床研修管理担当者研修会 研修医育成のワールドカフェ



医療教育プログラム推進機構が提供する「GM-I-TE（基本的臨床能力評価試験）」を解説した。

後半は「臨床研修医の基本的臨床能力向上のために何ができるか」をテーマにワールドカフェを実施。受講者は「他施設の方と有意義な意見交換、情報・知識・悩みの共有ができた」「他施設の現状を知ることができて、有益だった」と評価し、研修医の育成などの理解を深めた。

（済生会総研・人材開発部門／本部事業基盤課）



人材確保・人財育成でSDGs



第77回済生会学会が2月16日、

愛媛県県民文化会館で開かれた。テーマは「人材確保・人財育成でSDGs」。愛媛県では平成5年の今治病院、14年の西条病院に統いて3回目。

開会式では学会長の宮岡弘明松山病院院长が夏目漱石の小説「坊ちゃん」の衣装で開会挨拶、東良子看護部長と林田哲也事務長も同小説の登場人物に扮して舞台に登場し会場を和ませた。

基調講演は相澤病院ブランドアンバサダー・小平奈緒氏。「知るを愉しむ」と題し、スピードスケート選手時代を振り返り「自立を促してくれるコーチの存在、選手としての成長を互いに喜び合えるチームメイトの存在が大きかった」と話した。

他にもシンポジウム、ランチョンセミナー、パネルディスカッション、一般演題（口演・ポスター）発表などを実施。俳句が盛んな松山市にちなみ参加者が応募する「俳句済生会」では300句もの作品が集まった。他にも「蛇口からみかんジュースのスタンプラリー」も行なわれた。

懇親会

松山病院の皆さん、おつかれさまでした



午後5時30分から愛媛県民文化会館とANAクラウンプラザホテル松山で懇親会が開かれた。

愛媛県済生会の岡田武志支部長の挨拶に続き、来賓の村上博

市医師会会長が祝辞を述べた。
全国済生会病院長会の三角隆彦会長（神奈川・横浜市東部病院院長）の乾杯の音頭で祝宴に入り2時間にわたって交流と歓談が行なわれた。

「俳句済生会」の表彰式も行なわれ、愛媛県出身の俳人・川又夕氏が優秀作品を披露した。
若林久男同会副会長（香川県済生会病院院长）の中締めで閉宴となつた。

＼WEB掲載はじめました！／

済生会 topics WEB

機関誌「済生」に投稿されたtopicsから厳選した記事を発信中！

<https://www.saiseikai.or.jp/topics/>

寿地区無料健康診断に63人 「地域で生きる」を支える

神奈川県済生会



人が健診を受けました。今年の冬は非常に厳しい寒さでしたが、支援団体の方に聞いたところ、寒すぎることで支援につながらない方ばかりだったそうです。

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑務所や刑余者に対するイメージが深まつたのではないかと思いまして。

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑務所や刑余者に対するイメージが深まつたのではないかと思いまして。

人も取りこぼすことなく「地域で生きる」を支えるため、済生会として今後も活動していくことを考えています。

(若草病院 済生記者 西村悠香)

(長澤伸哉)

地域包括支援センターとは? 山口刑務所で連携士による講義

山口地域ケアセンター



（説明記者 楊 玉華）

2月6日、済生会地域包括ケーブルにて、「地域で生きる」をテーマに、6人の受刑者に対して相談事例を交えながら説明を行いました。

山口刑務所が行なう教育活動「高齢または障害を有する受刑者に対する社会復帰準備指導」として地域包括支援センターの話をしてほしいとの依頼がありました。

ア連携士の植木伸彦さん（社会福祉士）が「地域包括支援センターってどんなところ?」をテーマに、6人の受刑者に対して相談事例を交えながら説明を行いました。

昨年11月20日と12月18日

に、約10人の難民児童にインフルエンザワクチンを接種しました。

過去に難民のご家族がインフルエンザに感染し、当院に入院。その後、入院費の支払いが滞るという問題が発生しました。何とかこの状況を改善できないかとNPO難民支援協会と当院で検討を重ね、現在の活動へとつながりました。



人が健診を受けました。今年の冬は非常に厳しい寒さでしたが、支援団体の方に聞いたところ、寒すぎることで支援につながらない方ばかりだったそうです。

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑務所や刑余者に対するイメージが深まつたのではないかと思いまして。

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑務所や刑余者に対するイメージが深まつたのではないかと思いまして。

人も取りこぼすことなく「地域で生きる」を支えるため、済生会として今後も活動していくことを考えています。

(若草病院 済生記者 西村悠香)

(長澤伸哉)

熊本県地域生活定着支援センター



人が健診を受けました。今年の冬は非常に厳しい寒さでしたが、支援団体の方に聞いたところ、寒すぎることで支援につながらない方ばかりだったそうです。

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑務所や刑余者に対するイメージが深まつたのではないかと思いまして。

当センターは、罪を犯した障害・高齢の方への福祉的な支援を担っています。刑務所や刑余者に対するイメージが深まつたのではないかと思いまして。

人も取りこぼすことなく「地域で生きる」を支えるため、済生会として今後も活動していくことを考えています。

(若草病院 済生記者 西村悠香)

(長澤伸哉)

インフルエンザワクチン接種で難民児童に救いの光を

<埼玉> 川口総合病院



（医療福祉事業課 柳光季恵）

方々は今なお多くいます。また、難民申請中（仮放免）の方々は制度上、健康保険に加入できず、就労も認められていないため、病気にかかると自費での診療費を支払えないケースも少なくありません。

（医療福祉事業課 柳光季恵）

本活動は、貧困家庭の中でも特に支援が必要な家庭の児童を対象としています。限られた人数ではありますが、こうした支援が彼らの生きる力となることを確信しています。

食品配布会で相談支援 地域の生活課題に寄り添い、 医療・福祉につなぐ

〈栃木〉宇都宮病院



昨年12月27日、フードバンクうつのみやで開催された「子育て世帯向けの食品配布会（兼）相談会」に、当院の稻見一美 地域連携課長と牧宏一 MSW、富山里香 MSW、高木茜事務職員が参加しました。

食品や生理用品の配布と相談会に92人 アウトリーチの重要性を再確認

〈栃木〉宇都宮病院

親は「助かります」と目に涙を浮かべていました。

（地域連携課 秋山綾香）



昨年12月27日、フードバンクうつのみやで開催された「子育て世帯向けの食品配布会（兼）相談会」に、当院の稻見一美 地域連携課長と牧宏一 MSW、富山里香 MSW、高木茜事務職員が参加しました。

2月22日、宇都宮市内の「ふーばハウス」で第33回きずな食品配布会が開催されました。時折風花が舞う寒空の下、食料支援を求める100世帯が来訪。米やレトルト食品、調味料とともに、今回は特別にいちごが配布され、子どもたちから「いちごだ！」と歓声が上がりました。寒さの中に、笑顔が広がるひととき

となりました。

当院の医療ソーシャルワーカー（MSW）3人も相談支援のために参加。生活の困りごとを抱える母子家庭や障害者世帯、滞日外国人などの方々の声に耳を傾けました。

食品配布会は、単なる食料支

援の場にとどまらず、生活に困窮する方が気軽に相談できる貴重な機会でもあります。澤村謙太 MSWは「こうした地域の取り組みに参加することで、必要な支援を届けることができること」と話しました。

（地域連携課 秋山綾香）

茨城県の相談会にSW4人を派遣 医療・福祉サービスへ橋渡し

済生会関東ブロック MSW共同事業



2月9日、茨城県笠間市でNPO法人北関東医療相談会主催の「第69回医療相談会」が開催され、「済生会関東ブロック MSW共同支援事業」として茨城県にある龍ヶ崎済生会病院・水戸済生会総合病院・常陸大宮済生会病院・埼玉県にある生活支援センター夢の実から計4人のソーシャルワーカー（SW）を派遣しました。

医療へのアクセスが困難な人々を支援するための相談会で、SWたちは生活困窮者や在留資格に課題を抱える外国人を中心、医療・福祉サービスへの橋渡しを行ないました。

相談会では50人の予約枠が満員に。弁護士による無料相談、生活相談、食料・衣類などの支



（栃木・宇都宮病院 地域連携課 秋山綾香）



（済生記者 藤岡拓人）

なでしこプランの一環で、3月9日、津市にある更生保護施設「上弁財荘」で健診事業を行ないました。三重県済生会が毎年実施するもので、今回は当院

が担当。医師1人、看護師2人、臨床検査技師1人、MSW1人、事務1人の計6人で訪問しました。健診項目は身長・体

県内唯一の更生保護施設での健診事業で10人が受診

（三重）明和病院

重・腹圧計測、血圧測定、血液検査、心電図検査と充実した内容で、10人の入所者さんが受診しました。

更生保護施設とは、犯罪や非行により刑務所や少年院に入つた方々の社会復帰を支援する施設で、全国に102カ所あります。三重県ではこの上弁財荘のみです。





吉井省一

「お茶ってこんなにおいしいの」という一言が聞きたくて始めたのが、静岡市と焼津市で開いているカフエ「雅正庵」。抹茶をたっぷり使った華やかなパフェや彩り鮮やかなジェラートなどが楽しめるお店です。ここで人気の「生搾り抹茶モンブラン」を通販だけの特別仕様にしたのが「深濃抹茶モンブラン」。

世のパーティシエたちが、腕を見せどころとばかりに自慢の味を競い合う、洋菓子モンブラン。その形がアルプス山脈のモンブラン山に似ていることから名付けられたと言われています。

私が「山の日アンバサダー」だからというわけではありませんが、実は大好物のひとつ。なじみの洋菓子屋さんに行つた時には、必ず買って帰るほどです。

さて、今回ご紹介するのは、日本を象徴する山である富士山を望む茶処静岡で種れたお茶をふんだんに使つた「深濃」なるプレミアム付きのモンブラン。初夏の訪れを告げる茶摘みで知られる八十八夜も近い今こそ食べたい、極上スイーツです。

静岡抹茶が香り立つ
濃厚味のモンブラン

この「深濃抹茶モンブラン」をつくったのは、創業70年以上の歴史ある静岡の製茶問屋「おやいづ製茶」です。

岡県産「抹茶」
山間地の茶畠で覆いをかけて日光をさえぎりながら丹念に栽培された、旨み成分が多い高級茶葉を使用。中でも、奥深い甘味の決め手は何と言っても静

岡県産「抹茶」
山間地の茶畠で覆いをかけて日光をさえぎりながら丹念に栽培された、旨み成分が多い高級茶葉を使用。中でも、奥深い甘味の決め手は何と言っても静

日本一のお茶処で育まれた茶葉は、多くの工程を経て色・香り・旨みの三拍子が揃ったお茶に仕上がる

91
モンドブラン
深濃抹茶

みと上品な苦み、爽やかな香りが特徴の一茶葉（新茶）だけを使っているのが、製茶問屋さんならではのことだわりです。

「深濃抹茶モンブラン」のつくりは、上に抹茶のモンブランクリーム、真ん中にティラミス風のクリーム、下に抹茶シロップを染み込ませた自家製抹茶スポンジケーキの豪華な3段重ね。抹茶モンブランも最近はあちこちで見かけるようになりますが、何しろこちらは商品名に「深濃」が付いているのが特徴。「特濃」でも「極濃」でもなく、使われている抹茶が、とにかく

農家などから「荒茶」を仕入れ、仕上げ加工を施す。味へのこだわりから出荷するほぼ全てのお茶は「深蒸し煎茶」。深い緑色、まろやかな香り、とろとろとした強い甘みとコクが特徴



清生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。



カフェの人気メニュー「雅正庵鞠福パフェ」(左)と通販人気No.1の静岡抹茶バウムクーヘン「CHIYOの和」(右)。他にも大福やクッキー、ジェラートなど、抹茶好きならチェック必須のスイーツが目白押し



1mmの極細モンブランは食感も味も繊細。お口に入るやいなやホロホロと溶け去ってしまう。上品な甘さのティラミス風クリームと抹茶が香り立つスポンジケーキとの組合せが秀逸

たて感もぐんとアップします。一番上の直径1cmという極めて細い抹茶モンブランは、口に入れた瞬間ふわっと溶けていく色の通り、お茶の香りがむせ返るほどですが、その中にモンブランならではの栗の風味もしつかり感じられ、白餡の和の甘みもきいていて、絶妙なバランス。真ん中のクリームは北海道産マスカルポーネのコクが楽しめます。下のスポンジケーキも抹茶の香りが濃く、しつとりふわふわの食感で、程良い苦みも心地よく感じられます。

これらが三位一体となつて、お口の中で和洋の枠を超えた贅沢な抹茶スイーツとして完成。茶葉のプロたちが手がけたからこそこの見事な出来栄えです。敬意を表して、ここはやはり濃く淹れた静岡県産のお茶を横に置いて、いただきたいもの。

さあ、日本アルプスの上高地の山開き（4月27日）ももうすぐ。この満足度アルプス級のモンブランで、一足先に「美味しい」山開きをしてみませんか。



深濃抹茶モンブラン
[縦16.5cm×横8cm×高さ4.5cm]
3,600円(税込・冷凍送料込 北海道・沖縄・離島は送料別途950円)
賞味期限……冷凍未開封30日

お取り寄せ・お問い合わせは

雅正庵 by おやいづ製茶

〒421-0101 静岡県静岡市駿河区向敷地1-5-38

TEL: 054-268-1123

オンラインショップ: <https://www.gashoan.com>



農家などから「荒茶」を仕入れ、仕上げ加工を施す。味へのこだわりから出荷するほぼ全てのお茶は「深蒸し煎茶」。深い緑色、まろやかな香り、とろとろとした強い甘みとコクが特徴

雅正庵 by おやいづ製茶
静岡市

おめでとう!! ひよこのピィーちゃん

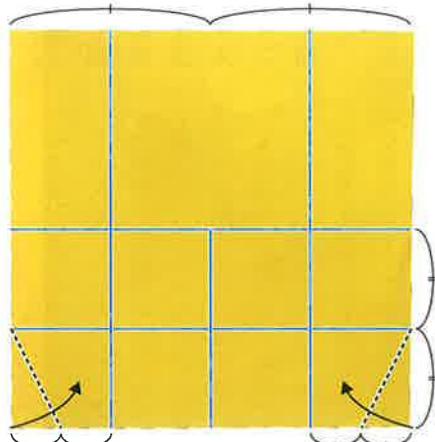
作品 いまいみさ



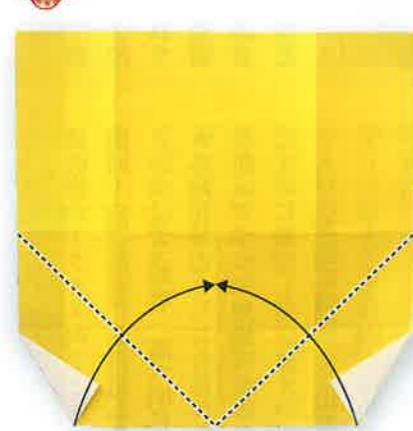
— 山折り
--- 谷折り
⟳ 裏返す

ひよこ

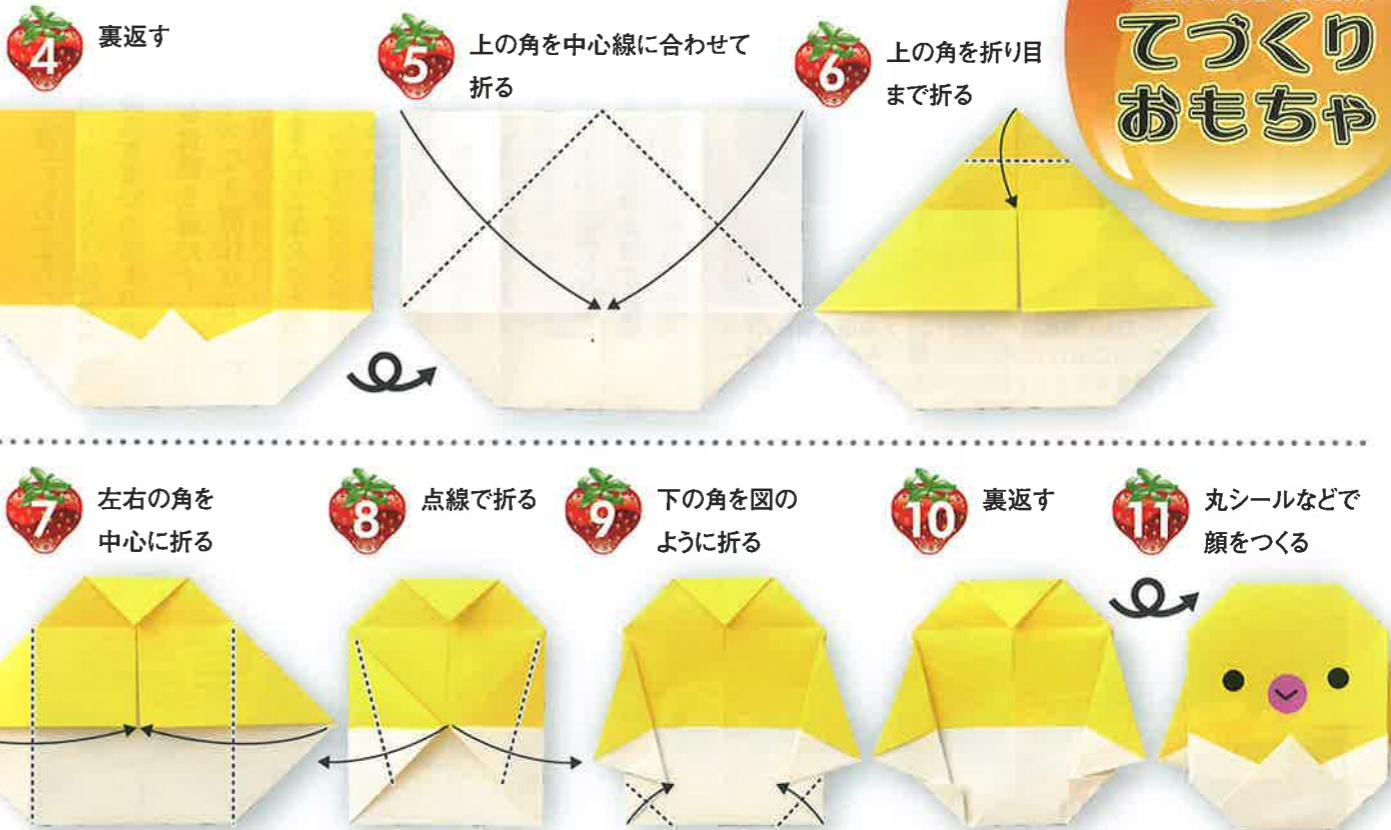
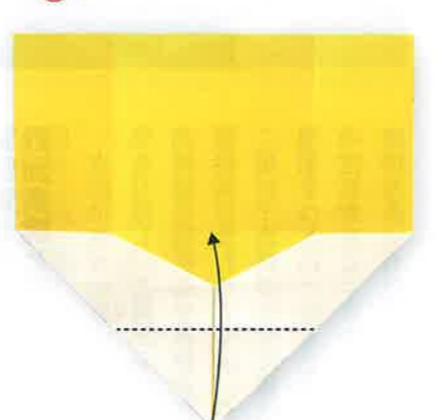
1 図のように折り目を付け、下の角を折る



2 両脇を中心線に合わせて折る

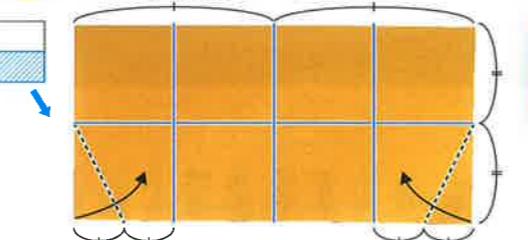


3 下の角を中心に折り上げる

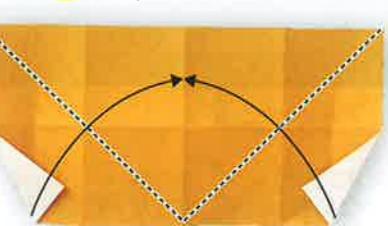


頭のから

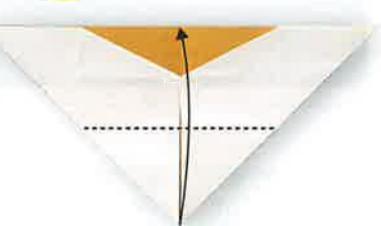
1 半分に切った折り紙を図のように折り目を付けて、下の角を折る



2 両脇を中心線に合わせて折る



3 下の角を折り上げる



4 左右の角を折り目より3mm外側で折る



5 向きを変える



6 ひよこのあたまにかぶせ、上の角を後ろに折り、完成



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図:いまいみさ おりがみ協力:株式会社トーヨー

だれでもかんたん
てづくり
おもちゃ



京都済生会病院で「けんこうとぼうさい」をテーマに済生会フェアを実施。企業と地域団体と連携し大盛況でした。詳細は84ページをご覧ください。

topics

快適な通院をサポート オンデマンドバス開始

〈大阪〉泉尾病院

当院では2

月4日から紹

介患者さん向

けの新たな送

迎サービス

「オンデマン

ドバス」を開

始しました。

当院の所在

する大阪市大

正区は高齢化

の進行が顕著

で、快適で便

利な移動手段

「TKA」5年で2000件超

2019年に導入したKinematic alignment法を用いた人工膝関節全置換術（TKA）の実施が、5年で2000件を突破しました。24年は620件の人工膝関節手術を実施してい

山形済生病院

ます。

当院では1980年の整形外科開設以来、人工股関節と人工膝関節の手術を積極的に行なっており、常に新しい方法を取り入れ治療実績を上げる努力を続けてきました。22年には人工関節センターを開設し、専用病棟を設置。術前から術後、退院までを専門のスタッフが関わりながら治療し、医療・看護・リハビリの集約的医療を提供しています。

手術では、スタッフ全員のチーム力が不可欠です。今後も多職種のスタッフが連携しながら、質の向上を目指していきます。

（済生記者 柏倉汐里）



病院救急車患者搬送研修

3月10日、民間救命士総括体制認定機構主催による「病院救急患者搬送研修」が当院で開催され、48人が受講しました。本研修は、病院救急車の運行に必要な知識や技術を学び、病院救急車の認知度の向上、その搬

を完走しました。

清水さんは「メディカルランナーとして初めて参加しましたが、沿道にいる応援の方から看護師さんがんばって」「ありがとう」とたくさん声援をもらい、それがとても励みとなり、貴重な体験ができました。来年もぜひ参加したい」と笑顔で話していました。

（済生記者 鈴木亜希乃）



79人の子どもたちが新生児蘇生法を学ぶ

〈大阪〉千里病院

3月2日、当院主催で第12回子どもメディカルラリーを開催しました。今回は30チーム79人の子どもたちと、111人のスタッフが参加しました。

遠方の徳島から参加したチームが見事優勝を果たすなど、白熱した競技が繰り広げられました。

関西大学の学生が担当するステーションでは、ドローンを活



用したシナリオが用意され、子どもたちは興味津々に取り組んでいました。

また、野外のステーションでは吹田市消防本部の方々から消火器の使い方を学び、防火服を着用して火に見立てるために向かって水消火器を噴射する体験も行ないました。

子どもたちが楽しみながら、もしもの時に役立つ知識や技術を身につける貴重な一日となりました。

（済生記者 二階堂潤江）

送の安全性や質の確保を図ることを目的としています。

当日は座学やグループディスカッションによる事例検討を実

施。実技では車両の誘導やストップチャーチの操作を学びました。

太救命士は「患者対応や搬送経路、資機材について詳しく学び、他機関との連携の重要性が再認識できた」と語りました。

2024年度の現時点での当院の病院救急車出動件数は148件で、年々増加傾向にあります。今後ますますの活躍を期待します。

（済生記者 二階堂潤江）

沿道からのエールを受け笑顔で大阪マラソン完走

〈大阪〉中津病院



2月24日に開催された大阪マラソンに、当院訪問看護ステーション所属の清水浩子看護師がメディカルランナーとして参加しました。メディカルランナーとは、コースを走りながらレース中に他のランナーの健康上の問題に遭遇した場合、初期対応を行なうボランティアです。

当日は大阪では珍しく雪が降りましたが、幸い対応を要請する事態もなく、ランナーに異変がないか声を掛けて体調を確認しながら、無事にフルマラソンを行なうボランティアです。

2月24日に開催された大阪マラソンに、当院訪問看護ステーション所属の清水浩子看護師がメディカルランナーとして参加しました。メディカルランナーとは、コースを走りながらレース中に他のランナーの健康上の問題に遭遇した場合、初期対応を行なうボランティアです。

当日は大阪では珍しく雪が降りましたが、幸い対応を要請する事態もなく、ランナーに異変がないか声を掛けて体調を確認しながら、無事にフルマラソンを行なうボランティアです。

施。実技では車両の誘導やストップチャーチの操作を学びました。研修に参加した当院の池本雄一郎、資機材について詳しく学び、他機関との連携の重要性が再認識できた」と語りました。

2024年度の現時点での当院の病院救急車出動件数は148件で、年々増加傾向にあります。今後ますますの活躍を期待します。

太救命士は「患者対応や搬送経路、資機材について詳しく学び、他機関との連携の重要性が再認識できた」と語りました。

2024年度の現時点での当院の病院救急車出動件数は148件で、年々増加傾向にあります。今後ますますの活躍を期待します。

（済生記者 二階堂潤江）

topics

茨城 龍ヶ崎済生会病院

小さな命を救うために 新生児蘇生法を学ぶ

2月18日に新生児蘇生法（専門コース）更新のため研修を実施しました。受講者の6人を含め、小児科医や助産師、看護師、救命士など17人が集まりました。

講義後、産科病棟で演習を行ないました。使用した人形は心拍や泣き声、チアノーゼの出現などを設定でき、見学者も興味津々。蘇生法の評価ソフトと人形を接続し、蘇生法を実施していくと、受講者は少しづつ感覺をつかみ、最終的には質の良い蘇生を行なうことができました。



の橋詰賢一主任診療科長から診療科の紹介がありました。その後、同科の河西未央医長が「大動脈解離治療について」、放射線診断科の八神俊明医長が「腹部大動脈瘤に対して自作開窓型ステントグラフトで対応した1例」、心臓血管外科の森光晴診療科長が「MICS手術の標準化・低侵襲心臓手術の現状」と題してそれぞれ講演。

低侵襲手術の最新動向を共有し、より安全で効果的な治療法について検討する有意義な場となりました。蘇生までの時間が長く感じられるほど緊張感があり、赤ちゃんの泣き声が聞こえたときには見学者も一緒になつてほつとしていました。

（済生記者 堀越琴美）



心臓血管外科低侵襲症例の最新動向を共有

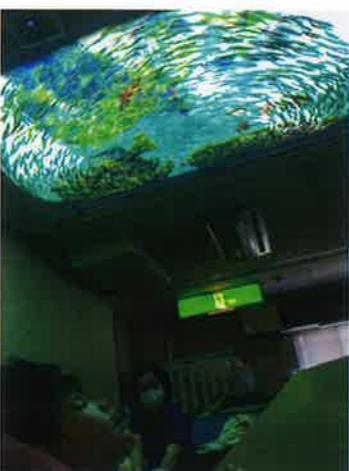
2月27日、当院研修室で「済生会心臓血管外科低侵襲症例検討会」を開催しました。本会はハイブリッド形式で実施され、院外14人・院内15人の計29人が参加しました。

会の冒頭では、心臓血管外科

の橋詰賢一主任診療科長から診療科の紹介がありました。その後、同科の河西未央医長が「大動脈解離治療について」、放射線診断科の八神俊明医長が「腹部大動脈瘤に対して自作開窓型ステントグラフトで対応した1例」、心臓血管外科の森光晴診療科長が「MICS手術の標準化・低侵襲心臓手術の現状」と題してそれぞれ講演。

低侵襲手術の最新動向を共有し、より安全で効果的な治療法について検討する有意義な場となりました。

（地域連携課 秋山綾香）



（静岡）療育センター令和施設が水族館に早変わり！

1月に「ゆめ水族館」の機能を搭載した移動型プロジェクションカー（ファンタスカー）を借りて、施設内で水族館を楽しみました。

「ゆめ水族館」とは、映像、音楽、スクリーンを組み合わせた空間の中で、視覚、聴覚、触覚などを通じて豊かな感覚刺激を体験できるセイコーエプソン株式会社の社会貢献活動です。

スクリーンや壁、天井、寒冷（かんれい）紗（布）に映像を映し出すと、室内が水族館に早変わり。約30

人の入所者さんは泳いでいる魚を追いかけたり、迫力のある映像に目を丸くして驚いたり、触れてみたり。幻想的な空間と音楽にウトウトしている方もいま

る患者さんの心理的・身体的な負担の軽減を目指した取り組みについての発表でした。

審査員を務めた野々村和男院長は「年々内容が充実している。今後、関連学会など病院外でも広く発表していくことが期待できる」と総括しました。

（済生記者 中嶋元香）

（滋賀）守山市民病院

看護の質向上を目指して

講習では映像で救命の方法を学んだ後、手を動かして実践練習を行ないました。紙の上に置いた心臓マークを押す、紙に書かれたショックボタンを押すといったシンプルな形式のため、いつたシンドルな形式のため、場所を選ばず気軽に学べるのがこの講習の魅力です。

「医療者だけでなく、市民でも優秀賞を受賞したのは感染管



（滋賀）守山市民病院

PUSHで救命を学ぶ

胸骨圧迫やAEDの使い方を広め、もしものときに助け合える地域づくりを目指すPUSHプロジェクト。救急看護認定看護師の八鳥公男さんはこの取り組みを推進していくこと、インストラクターの資格を取得。そのお披露目として2月20日、院内で職員向けのPUSHコース（短時間の救命講習）を実施しました。

（済生記者 大須賀彩音）

新潟県央基幹病院

また、せっかくの機会なので外来患者さんや地域の人にも見てもらおうと施設のさまざまな場所で投影。鮮やかできれいな水族館を目の前で楽しむまでの体験ができました。

（済生記者 大須賀彩音）



（滋賀）守山市民病院

理室の宮脇舞子室長代行（感染管理認定看護師）で、テーマは「入院中のCOVID-19（新型コロナ）陽性患者の隔離期間短縮の試み」。新型コロナは感染時の隔離期間が医療機関ごとの判断となっていることから、感染拡大を防ぎつつ、隔離による患者さんの心理的・身体的な負担の軽減を目指した取り組みについての発表でした。

審査員を務めた野々村和男院長は「年々内容が充実している。今後、関連学会など病院外でも広く発表していくことが期待できる」と総括しました。

（済生記者 中嶋元香）

（滋賀）守山市民病院

看護の質向上を目指して

看護部主催の「看護研究発表会」を2月21日、当院くすの木ホールで開催しました。看護の質の向上を目的として毎年行なっているもので、審査員を含む50人が参加。全8演題の発表が行なわれました。

優秀賞を受賞したのは感染管



（滋賀）守山市民病院

講習では映像で救命の方法を学んだ後、手を動かして実践練習を行ないました。紙の上に置いた心臓マークを押す、紙に書かれたショックボタンを押すといったシンプルな形式のため、いつたシンドルな形式のため、場所を選ばず気軽に学べるのがこの講習の魅力です。

「医療者だけでなく、市民でも優秀賞を受賞したのは感染管

〈山形〉特養ながまち荘 勤続30年を振り返って

2月7日、ホテルメトロポリタン山形で「山形県済生会永年勤続表彰式」が行なわれました。当社からは30年表彰の岩崎勝也施設長や筆者を含む4人が表彰されました。当日は山形済生病院をはじめ、7カ所の福祉施設の表彰者が一堂に会し、済生会の歴史とつながりを感じる貴重な機会となりました。



左から大波孝至さん、岩崎勝也さん、野口美也子さん(筆者)、種本佳奈恵さん

30年を振り返ると、うまくいった思い出よりも、できなかつたことがいつまでも心に残っています。それでもここまで続けられたのは、困ったときに助けてくれた先輩方、同僚、後輩、関係する皆さんのおかげであります。これからは私がその一翼となるべく、できることを丁寧に積み重ね、よりいつそう励んでいきたいと思います。

(なでしこ地域包括支援センター 保健師 野口美也子)

〈長野〉佐久市特養 シルバーランドみつい 楽しくできる認知症予防

3月9日、地域の方々を対象に認知症予防教室「いきやしょみつい」を開催しました。コロナ禍で中断していましたが、佐久市民の日協賛事業の一環として再開しました。

参加した14人は、軽いストレッチや認知症予防効果があるとされる脳トレを通じて、楽しい時間を過ごしました。特に、体と頭と指先を使ったゲームは脳の活性化につながったようでした。教室開始時の緊張した顔つ



健康意識向上を目的に「腎臓病ってなーに?」のタイトルで行なわれ、今井副院長が腎臓の機能や病気の種類などについて説明。講演後は受刑者から「若い人でも腎臓病になるのか」「以前血尿が出て結石と言われたが腎臓の病気の可能性もあるのか」など多くの質問が寄せられました。

当日は251人の受刑者が参加し、真剣な表情で講演に聴き入っていました。今回の講演



〈山口〉総合病院 「腎臓病ってなーに?」 刑務所で講演

2月21日、ソーシャルリンクルージョン事業として、山口刑務所で当院の今井剛副院長が腎

が長く働き続けられる職場環境の整備」など、活発な意見が寄せられ、世代ごとの課題や期待が明確になりました。また、同世代で情報を共有し交流が深まる貴重な機会にもなりました。

(総務・企画課 山中絵美)

「デジリハ」活用法を伝えにインドへ職員派遣

〈北海道〉みどりの里

インドの特別支援学校でデジリハの導入が始まっているとのことで、2月5～11日、筆者は現地の先生方を支援するため、

から導入しています。

インドの特別支援学校の先生方は「ツールを使いこなしたい」という熱意にあふれ、積極的に課題を共有してくれました。

筆者は当施設で培ったノウハウをもとに、センサーの活用や支援についてポイントを直接伝え、デジリハの楽しさを説明しました。

（通所事業支援室長 兼療育医療技術室課長 兼企画調整室課長／作業療法士 小玉武志）

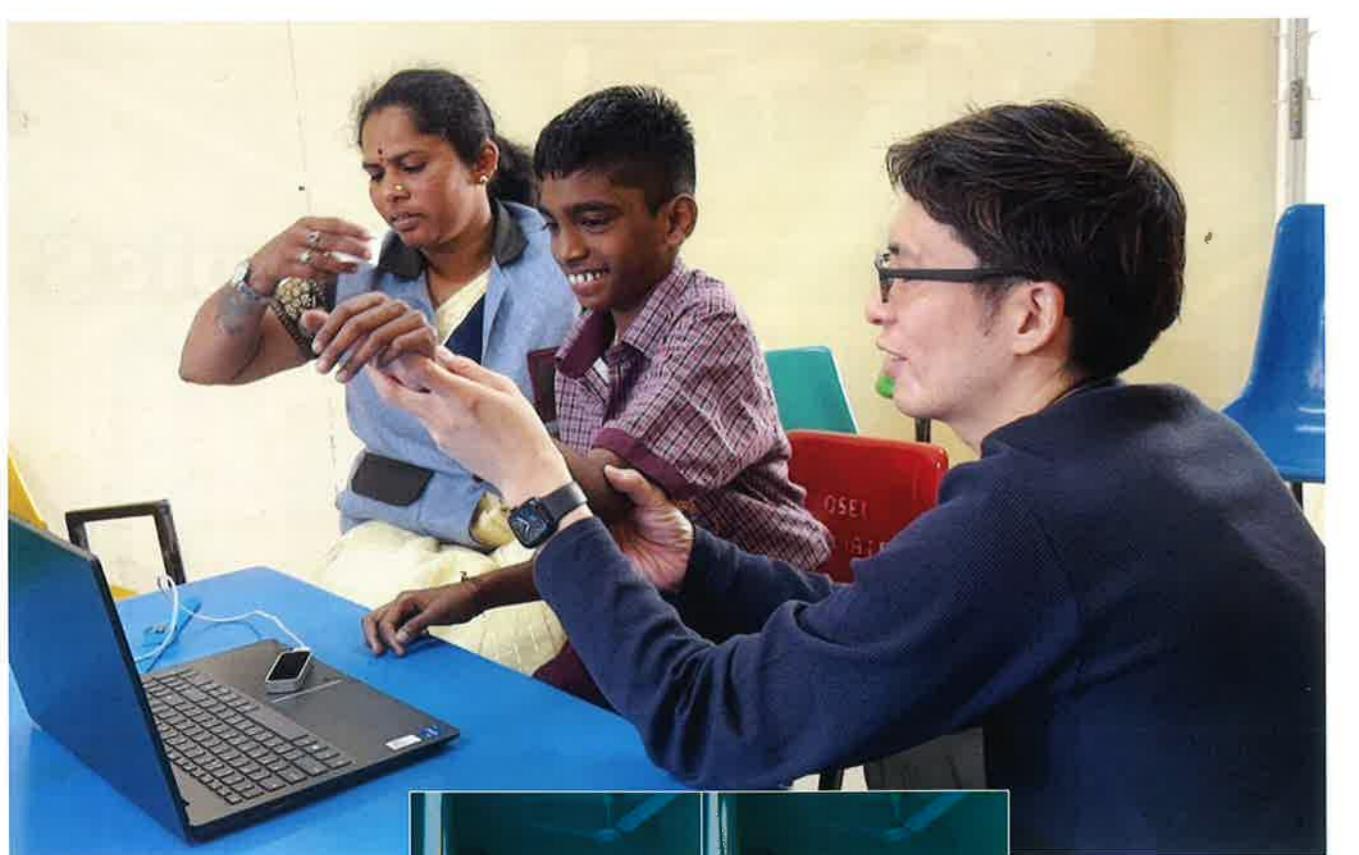


事務部でワールドカフェ

2月下旬～3月中旬に事務部内でワールドカフェを4回開催し、職員120人が参加しました。これまで何回か開催していましたが、今回は「今後の人材育成の取り組み」をテーマに、

同世代の職員同士でグループを構成。世代ごとの視点を生かしながら、テーマに対する意見交換や情報共有を行いました。

参加者からは「若手が成長できる体制づくりが重要」「職員



株式会社デジリハの方々に同行してデリー・ブネー・バンガロールの3都市を訪れました。

デジリハは各種センサーを用いたアプリケーションを提供するサービスで、障害の有無にかかわらず子どもが楽しめるツールです。当施設と北海道済生会福センターでは2022年

2月下旬～3月中旬に事務部内でワールドカフェを4回開催し、職員120人が参加しました。これまで何回か開催していましたが、今回は「今後の人材育成の取り組み」をテーマに、同世代の職員同士でグループを構成。世代ごとの視点を生かしながら、テーマに対する意見交換や情報共有を行いました。

参加者からは「若手が成長できる体制づくりが重要」「職員



透析医療の知識・技術向上 4年ぶりのセミナー開催

熊本病院

in 熊本が、2月23日に熊本

城ホール大会議室で開催されました。参加人数は100人を超えた。透析患者の合併症対策を行なわれました。

このセミナーは2018年に熊本で第1回が開催されて以来、東京、岡山、水戸、北九州、横浜と各地で開催されてきましたが、21年にはコロナ禍の影響で一時休止され、4年ぶりの開催となりました。

当日は大会長の当院腎臓科部長・副島一晃医師をはじめ、透析室所属スタッフや多職種(医師、薬剤師、臨床工学技士)の

講師がそれぞれの視点から透析医療の症例を紹介。参加者にとって貴重な学びの機会となりました。

次回セミナーは、来年2月に山口県で開催される予定です。

(医療秘書室 末藤のぞみ)



福岡 一日市病院 春の筑紫野をウォーキング



事務職員の交流研修

2月19日、事務職員交流制度での研修体験についての院内報告会を当院会議室で開催しました。これは他病院の業務内容や方法を直接学ぶ事務職員交流制度での研修内容を共有するための報告会で、19人が集まりました。

今回、総務課の坂本佑太さんは福井県済生会病院総務課でDX化による総務業務の効率化について、総務課の松田智美さんは〈神奈川〉横浜市東部病院人材開発センターで人材育成について、医療サービス課の森脇知里さんは〈大阪〉中津病院医療サービス課で入院係の業務

し盛会となりました。参加者からは「脳卒中予防をすぐに始めたい」「認知症の家族との接し方がよく分かった」といった声が寄せられました。

認知症の最新治療について講演した木村医師は「地域住民の脳疾患を少しでも減らせるよう今後も継続して開催したい」と意気込みを語りました。

(済生記者 今野正俊)

鳥取 境港総合病院 事務職員の交流研修

2月19日、事務職員交流制度

での研修体験についての院内報

告会を当院会議室で開催しまし

た。これは他病院の業務内容や

方法を直接学ぶ事務職員交流制

度での研修内容を共有するための報告会で、19人が集まりまし

た。

子どもたちと振り返る 西日本豪雨災害

〈広島〉特養たかね荘こやうら

2月19日に地元の坂町立小屋浦小学校5年生7人と施設利用者30人の交流会を開催しました。平成30年7月に発生した西日本豪雨灾害でこの小屋浦地区は



内容について研修を受け、それでの研修体験や自院・自部署での活用案を報告しました。報告者からの具体的な活用案の提案を聞き、参加した職員からも「人材教育や各部署でのマニュアル整備を進めていきたい」という声が上がりました。

(済生記者 坂本洋司)

当院はより効果的にウォーキングを楽しんでもらえるように、スタート前に理学療法士による歩き方レクチャーを実施。骨密度測定と体組成測定の健康チェックコーナーも設け、ゴール後は多くの方が自身の健康状態を

どの史跡、二日市温泉を巡る約6キロのコースを約400人も参加者が春の訪れを感じながらウォーキング。スタート時の空は快晴で、絶好のお散歩日和となりました。参加者の皆さんも、思い思いに景色を眺めたり、会話を楽しんだりしながら、ウォーキングを楽しんでいる様子でした。

取り組みとして企画しました。脳神経内科・木村健介主任部長、脳神経外科・小磯隆雄部長、浅井佳子認知症看護認定看護師による講演、高齢者体験ブース、認知機能チェック等の健

度測定と体組成測定の健康チェックコーナーも設け、ゴール後は188人の地域住民が来場



茨城 水戸済生会総合病院 脳の健康寿命を伸ばそう

確認していました。

(済生記者 久富大史)

2月8日、イオンモール水戸内原で市民公開講座「脳の健康寿命を伸ばそう」を開催しました。本講座は未来に向けた持続可能なまちづくり協定に基づく



入居者の我妻さん アート展で入選

第9回やまと障がい児者アート公募展「Art Digるくべ（アート デイグるくべ）」で、応募総数125点の中から入居者の我妻みつ子さんの描いた絵が見事入選しました。

きわ輝いており、とても素晴らしいです。

（介護職員 西塔有芽香）

（群馬）前橋病院

介護を詠んだ俳句で優秀賞

当社で取り組んでいる臨床美術を用いた活動で制作した作品

で、題名は「たべたいな」。

好きな絵の具の色を選んで

もらい、白い画用紙に自

分の好きなよ

うに塗ったり、

絵の具を垂らしたりして表

現しました。

我妻さんは

2月18日に作

品が展示され

ている「ぎや

らりーらーら

ー」に担当職員と一緒に行つきました。

額縁に飾られ

た作品はひと



います。

（看護部長 山賀理恵）

（神奈川）金沢若草園

自販機補充作業を経験

東京キリンビバレッジ株式会社の協力のもと、2月19日に利用者さんの作業訓練として自動



〈山形〉特養ながまち荘 アート展で入選

第9回やまと障がい児者アート公募展「Art Digるくべ（アート デイグるくべ）」で、応募総数125点の中から入居者の我妻みつ子さんの描いた絵が見事入選しました。

きわ輝いており、とても素晴らしいです。

（介護職員 西塔有芽香）

（群馬）前橋病院

介護を詠んだ俳句で優秀賞

「からからと語らう介護冬晓」

2月16日に行なわれた第77回

済生会学会「俳句済生会」で、

筆者が詠んだ句が優秀賞を受賞

しました。

当院の看護管理者には永年勤

続30年前後の同年代が多くいま

す。子育てが一段落すると介護

して対応方法を十分に知つてい

るもの、当事者となると途端

に素人の感覚に陥ります。

両親や義父母が変わっていく過程を受け入れるのは非常に辛く、悲しいことです。だからこそ、からからと明るく介護を語り共有することで、冬のように先の見えない苦しさの中、一筋の明かりを見いだしていくことをする、そんな看護部でありたい——このような思いを込めて言葉を並べてみました。

師長会で受賞を報告し、大きな拍手をいただきました。この幸運を大事にしていきたいと思

た。

当院に限らず、医療機関には全国の皆さんへ伝えたい情報がたくさんあります。それらを誰でも読めるオープン社内報として発信することとで、病院や全国の済生会、さらには医療全体をより良くするための意見交換のきっかけになればと考えています。

販売機の補充作業を行ないました。

この作業訓練は、就労に必要な知識や作業内容などをより実践的に習得できるように毎月2回実施しています。今回は利用者さん9人が参加し、当園ロビーに設置してある自動販売機の

補充作業を行ないました。

利用者さんからは「キリンの会社で補充を行なう仕事をやりたい」「今回はミルクティーが一番卖れたね」などの声が上がりました。

自動販売機の補充作業は、商品の補充だけでなく、お金の管理や季節ごとの商品入れ替え、清掃作業など多岐にわたります。利用者さんの技能範囲を広げる取り組みや、作業環境の確保などを進め、就労機会の増進につなげていきたいと思います。

（済生記者 日高 純）

（福岡）飯塚嘉穂病院

防火管理を評価され表彰

3月6日、飯塚地区消防本部で令和6年度優良事業所表彰式が行なわれました。当院が表彰を受け、関口直孝院長と防火管理者である塙嶋浩輔総務課長が出席しました。

この表彰は、消防用設備等の設置・維持管理が適切で、防火管理業務の推進に顕著な業績がある事業所に対して、毎年1事業所のみに贈られる賞です。式典では、当院の日頃からの防火への取り組みが高く評価され、



賞状と盾が授与されました。

関口院長は「患者さんの安全を第一に考え、職員一丸となつて防火管理に取り組んできた成果が認められ、大変光栄です。今後もより一層、防火対策に努めます」と受賞の喜びを語りました。

（経営企画室長 春口勇介）

岡山済生会総合病院

公式noteはじめました

2月25日にnote公式アカウントを開設し「オープンな院内報

カウンタを開設し「オープンな院内報（社会にオープンな院内報）



興味のある方は、ぜひフォローをお願いします。

（済生記者 高畠貴子）



topics



令和6年度
医療専門職支援人材活用セミナー
看護補助者の確保・定着に向けた取り組みについて～

社会福祉法人 関東済生会 法賀県病院
2025.2.20 松村 智子

3月3日、済生会永年勤続表彰式を行ないました。

今年は20年表彰6人、10年表彰16人の合計22人が表彰を受け、吉岡正一院長が表彰状と記念品を授与した後、お祝いの言葉を述べました。被表彰者代表の謝辞では、昔の懐かしいエピソードが語られ、笑いを誘う場面もありました。



2月20日、厚生労働省主催の「令和6年度医療専門職支援人材活用セミナー」で、松村智子看護部長が当院での看護補助者の確保・定着に向けた取り組み

(済生記者 中嶋亮三)

2月20日、厚生労働省主催の「令和6年度医療専門職支援人材活用セミナー」で、松村智子看護部長が当院での看護補助者の確保・定着に向けた取り組み

(済生記者 有馬真由美)

**永年勤続表彰で
思い出話に笑顔咲く**

3月3日、済生会永年勤続表彰の伝達式を院内で行ないました。

今年は20年表彰6人、10年表彰16人の合計22人が表彰を受け、吉岡正一院長が表彰状と記念品を授与した後、お祝いの言葉を述べました。被表彰者代表の謝辞では、昔の懐かしいエピソードが語られ、笑いを誘う場面もありました。

住民の方から譲り受けた「雛人形七段飾り」を、雛祭りに合わせて2月下旬から3月10日にかけて院内ホールに設置しました。この雛人形は地域の幼稚園で長年にわたって使用されたもので、その豪華絢爛な雛人形に、予防接種のために来院した子どもたちが目を輝かせていました。また、患者さんや院内スタッフからは「きれいだね」「とつ

も豪華だね」といった声が聞かれました。

新型コロナウイルス感染症など、まだ油断ができない中、無病息災を願う季節の行事に触れられたことをうれしく感じました。

(済生記者 中嶋亮三)

看護人材確保・定着の取り組みを紹介

松村看護部長は、看護部が他の部署と連携して経営に参画することの重要性を強調。経営企画課と連携し診療報酬改定の流れを分析した上で、看護補助者増員によるタスクシフトを実施した事例や、人事課と連携した新規人材確保と雇用定着に向けたアラダードによる人材育成などの取り組みについて説明しました。

当日は約500人がオンライン参加し、今回のテーマへの関心の高さがうかがえました。

(済生記者 有馬真由美)

**永年勤続表彰で
思い出話に笑顔咲く**

3月3日、済生会永年勤続表彰式を行ないました。

今年は20年表彰6人、10年表彰16人の合計22人が表彰を受け、吉岡正一院長が表彰状と記念品を授与した後、お祝いの言葉を述べました。被表彰者代表の謝辞では、昔の懐かしいエピソードが語られ、笑いを誘う場面もありました。

(済生記者 舟橋麻紀)



**長崎福祉センター
温かな気持ちで満たされ
「よか見物ができた」**

デイサービスでは年間を通じてさまざまなイベントを企画しています。2月4・6日には、冬の一大イベント「ランタンフェスティバル」に計11人の利用者さんと職員が出かけました。この催しは中国の「元宵節」にちなんだ行事で、長崎新地中华街をはじめ市内中心部が極彩色のランタンで飾られ、幻想的

な景を作ります。鮮やかに彩られた街並みを見た参加者の皆さんからは、「きれかね」「よか見物ができた」といった感想が上がりました。

また、「天気も良くて気持ちよかったです」という意見も多く、冬の清々しい空氣の中での散策は、身心ともにリフレッシュする良い機会となつたようです。「夜だとさらにきれいだろう」との声も聞かれました。

(済生記者 川端 誠・川瀬義博)

**（東京）中央病院
参加イベントの告知で
ラジオに初出演**

3月13日、東京都港区浜松町の文化放送でラジオ番組「長野智子アップデート」に出演し、3月15日にはみんなとプロジェクトで参加したイベント「竹芝みなとフェス」を紹介しました。みんなとプロジェクトでは、戸板女子短期大学と埼玉県にある福祉工房にいざにレシピ開発を依頼し、しばみと国産レモンを使用した焼き菓子「レモハチマフィン」を商品化。その初回販売を今回のイベントで行な



うため、ラジオで告知することになりました。番組では戸板女子短期大学食物栄養科学生の渡辺翼さんと一緒に、プロジェクトの紹介とレシピ開発のエピソードを紹介しました。

ラジオでの情報発信は初めてでしたが、パーソナリティの2人にとっても和やかな雰囲気を作つていただき、緊張しながらも楽しむことができました。

(入退院支援室 佐藤弘恵)

**岩手 岩泉病院
雛祭りを彩る七段飾りで
無病息災を願う**

当院では、地域とのつながりを大切にする一環として、地域



でド話をしました。

長年、尽力してくれている職員の皆さんへ感謝するとともに、これからも当院やこの地域と一緒に盛り上げてくれることを切に願っています。

(済生記者 舟橋麻紀)

topics

神奈川 横浜市東部病院

活動成果報告会に7演題

2月21日、当院多目的ホールで TQM Annual Meeting 2024を開催しました。昨年に引き続き開かれた本会は、部署やスタッフによるさまざまな活動成果報告会で、当日は44人が聴講。演題は全部で七つあり、三つのセッションに分かれて行なわれました。



第1回研究会に22施設・62人が参加

全国済生会ロボット支援手術研究会

1月18日、東京都内で全国済生会ロボット支援手術研究会を開催しました。今回が1回目で「医療改善と病院経営事例報告」「各病院での取り組みの情報共有」を目的に、22施設から医師・看護師など62人が一堂に会しました。

（神奈川）横浜市東部病院の三角隆彦院長、滋賀県病院の木恒治院長の挨拶で始まり、筆者が会の主旨説明を行ないました。

Executiveセッションでは

看護師2年目の 経験と学びを発表

（三重）明和病院

2月20日、看護教育委員会が主催する2年目看護職員研修「ケーススタディ」発表会が開催されました。

当日は研修を受けた4人の看護職員たちが、患者さんや利用者さんとのかかわりについての学びをまとめ、発表を行ないました。

終了後も患者さんからのリクエストに応え、院長は患者さんと

終了後も患者さんからのリクエストに応え、院長は患者さんと

デュエットを披露しました。
(経営企画室長 春口勇介)

2月1日、地域医療機関との連携強化を目的として「大正泉州フーラム」をホテル日航大阪で開催し、現地・オンライン合わせて150人が参加しました。

フォーラムでは、当院薬剤科・三箇山宏樹主任科長が「医療用医薬品の安定供給」について講演した後、近畿大学病院心臓血管外科・坂口元一教授が特別講演「心臓弁膜症に対する低侵

りハリテーション病棟で春の演奏会を開催しました。長期入院中の患者さんを元気づけよう

（福岡）飯塚嘉穂病院院長の熱唱でフィナーレ

3月7日、当院3階の回復期病院経営とロボット支援手術導入に関わる演題を二つ、同様にExecutive Surgeonセッションではロボット支援手術のスタンダード化と臨床改善によるトータルコストケアの2演題を発表。また、後半では Da Vinci 最新機種SPを使用した事例紹介や手術室看護師による発表がありました。

（代表 石田勝）横浜市東部病院



（済生記者 藤岡拓人）

発表者たちは緊張しながら、自らの経験や学びをしっかりと振り返ることができました。会場には聴講者として先輩ナースや介護職員など42人が参加し、発表者たちの努力を温かく見守りました。発表会の最後には看護師長からの感動的な総評があり、看護部長から看護師2年目研修の「修了証書」が手渡され、発表者たちの努力が正式に認められました。

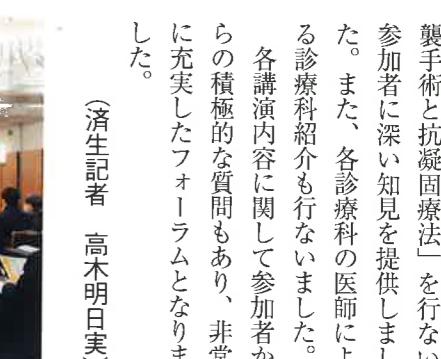
この研修を通じて、看護職員たちはさらなる成長を遂げ、今後の実践に生かしていくことを誓いました。



と企画されたもので、医師やリハビリスタッフなどの有志に参加者に深い知見を提供しました。また、各診療科の医師による診療科紹介も行いました。各講演内容に関して参加者からの積極的な質問もあり、非常に充実したフォーラムとなりました。

（済生記者 高木明日実）
襲手術と抗凝固療法」を行ない、参加者に深い知見を提供しました。また、各診療科の医師による診療科紹介も行いました。各講演内容に関して参加者からの積極的な質問もあり、非常に充実したフォーラムとなりました。

患者さん約35人とスタッフ約15人が集まり、演奏が始まると皆が笑顔に。患者さんたちは演奏を披露しました。患者さん約35人とスタッフ約15人が集まり、演奏が始まると皆が笑顔に。患者さんたちは演奏を披露しました。



（済生記者 高木明日実）
と企画されたもので、医師やリハビリスタッフなどの有志に参加者に深い知見を提供しました。また、各診療科の医師による診療科紹介も行いました。各講演内容に関して参加者からの積極的な質問もあり、非常に充実したフォーラムとなりました。

患者さん約35人とスタッフ約15人が集まり、演奏が始まると皆が笑顔に。患者さんたちは演奏を披露しました。患者さん約35人とスタッフ約15人が集まり、演奏が始まると皆が笑顔に。患者さんたちは演奏を披露しました。

topics

熊本福祉センター

日頃の感謝を込めて 育てた花をプレゼント

2月18日、日頃お世話になつてゐる地域の方々へ感謝を伝えられたため、消防署や中学校等の地域の事業所に当センターで育てた花をプレゼントしました。

今回お届けした花は、済生会



が育てたものです。1月21日にほほえみ生活介護の利用者さんが育てたものです。1月21日に



「花を植えるグループ」と「作るグループ」に分かれランナーにミニ看板を作業に取り組みました。

花を植えるときには優しく手に取つて「きれいな花が咲きますように」と心を込めて、ミニ看板作りでは何の花なのか分かりやすいよう絵や文字を丁寧に描いて仕上げました。

利用者さんは誰かにプレゼントをすることがうれしいようで、笑顔で取り組んでいました。水やりをこまめに行ない、利用者さんの温かく優しい気持ちのおかげできれいな花を咲かせることができました。

(支援員 島崎成美)

た取り組みを紹介しました。生徒82人のうち、12人が当院の説明会に参加。熱心に質問しメモをとるなど、とても興味を持つてくれていることが強く伝わってきました。参加した生徒が看護師の仕事に興味を持つ進路を選択し、いずれ小樽市で働いてくれることを期待しています。

(看護部次長 中川尚美)

山口達也氏講演も

1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第20回熊本作業療法学会」生活をデザインする作業療法」が開催され、作業療法士、一般参加者、学生など約400人が集まりました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)

1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活をデザインする作業療法」が開催され、作業療法士、一般参加者、学生など約400人が集まりました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)

1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活をデザインする作業療法」が開催され、作業療法士、一般参加者、学生など約400人が集まりました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテー

ション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

山口達也氏講演も

(看護部次長 中川尚美)



1月26日、当院リハビリテーション部・作業療法士の後藤土郎さんが学会长を務める「第

20回熊本作業療法学会」生活を

デザインする作業療法」が開

催され、作業療法士、一般参加

者、学生など約400人が集

りました。

topics



ークリングチームが1年間の活動の最終レビューを行ないました。2024年度は全国から集結した約60人のメンバーが五つのワーキングチームに分かれ、それぞれが高い専門性を持って研究に取り組みました。模擬適時調査を中心とした施設基準管理に関するもの、収益向上、業

務効率化と今後あらゆる病院が直面する普遍的なテーマが設定され、各メンバーが意義深い1年間を過ごしたと思います。

これらの活動を済生会の各病院にとってさらに意義あるものにすべく、25年度も活動を継続していく予定です。

(事務局／福岡総合病院)

経営企画課 新田 恵)

（香川）特養なでしこ香川
お灸をもつと身近に

昨年12月19日、当施設の地域交流スペースで高松市高齢者居場所連携事業として「お灸講座」を開催しました。

高齢者居場所連携事業は地域の高齢者だけでなく子どもたちも交えた世代間交流の場と位置づけされ、当施設でも高松市と協力しながら昨年から開始しました。

今回は日本セルフお灸協会から講師を招き、15人の参加者にお灸の効能や現代の商品について説明してもらつた後、皆でお灸を体験しました。手足のツボに台座灸（台座にシールのついたお灸で一人でも簡単に使用できるもの）を使ってみると、参

加者は「ほどよく熱くて気持ちいい」「熱いかと思つたけど大丈夫」と楽しんでいました。

体験することで誤ったイメージが払拭され、お灸が身近なものとなつたようです。

（事務所 穴吹浩二）

岡山済生会総合病院
NPO団体に寄贈

2月27日、地域災害拠点病院としての災害時用備蓄食（職員用）のうち、賞味期限の近い「ラスクツッキー」（1箱8個入り）768箱を、NPO法人岡山きずなへ寄贈しました。

2022年3月には災害備蓄用缶詰パン「生命のパン」を



寄贈しており、今回で2回目。施薬救療の理念に基づく生活困窮者支援事業「なでしこプラン」のもと、総務課の職員がお届けしました。

また、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」持続可能な消費と生産のパターンを確保

する」とに基づき、寄贈するこ

とでフードロスの解消にもつながりました。

岡山きずなのスタッフからは「前回に引き続き、このような支援はとても心強く、大変ありがとうございます」との感謝の言葉をいただきました。

（済生記者 高畠貴子）



林名譽院長は「殿下からお祝いの言葉を賜り、緊張するとともに感激した」と話しました。さらに、「この栄誉は職員の皆さんを代表して受け取つたと思っています。20年前の千里病院の設立にあたり、職員の皆さんが熱く懸命に取り組んだこと、そして光り輝く素晴らしい病院へ

開催されました。この栄誉を祝い、喜びを分かち合うため、3月13日に「済生会功会員表彰お祝いの会」が皇嗣殿下から表彰されました。

2月16日、松山市で開催された済生会総会で、林亨名譽院長が有功会員として総裁の秋篠宮

皇嗣殿下から表彰されました。

（済生記者 二階堂潤江）

（神奈川）横浜市東部病院
院内デイケアで
サルビア利用者さんと交流

2月13日に院内デイケアを行ない、当院の患者さん5人と重症心身障害児（者）施設サルビアの利用者さん7人の交流がありました。

サルビアでは2月いっぱい写真展を開催。これまでサルビアで撮られた写真が装飾とともにたくさんの壁面に展示されました。当院の患者さんはサルビアの利用者さんとともに展示写真をスタッフと話しながら鑑賞し、バレンタイン前日だったのでチヨコレート作りも行ないました。

皆さんにとって気分転換のひ

と時となつていたらうれしいです。

（済生記者 荒木愛美）



医療政策・医事研究部会
高い専門性を持つ
研究に取り組んだ1年

3月13日、福岡市の警固神社社務所ビルで福岡総合病院が事務局を担う医療政策・医事研究部会の全体会議を開催し、各ワ

真展を開催。これまでサルビアで撮られた写真が装飾とともにたくさんの壁面に展示されました。当院の患者さんはサルビアの利用者さんとともに展示写真をスタッフと話しながら鑑賞し、バレンタイン前日だったのでチヨコレート作りも行ないました。

皆さんにとって気分転換のひと時となつていたらうれしいです。



（大阪）千里病院 有功会員表彰お祝いの会

2月16日、松山市で開催された済生会総会で、林亨名譽院長

が有功会員として総裁の秋篠宮

皇嗣殿下から表彰されました。この努力を心から尊敬し、今回の受賞についても深く感謝している」と感謝の気持ちを述べました。

（済生記者 二階堂潤江）

と育て上げたことが評価されたもの。その努力を心から尊敬し、今回の受賞についても深く感謝している」と感謝の気持ちを述べました。

（済生記者 二階堂潤江）

創立10周年 会員数2・6倍へ

2月22日、(東京)中央病院で創立10周年記念式典およびセ

ミナーを開催し、来場19人・オンライン129人が参加しました。

式典では、(奈良)中和病院の今川敦史名誉院長、松原了済生会理事が祝辞を述べ、事務局の筆者が作成したスライドで研究会の10年を振り返りました。

セミナーでは、初代代表世話人の御幸病院・西上和宏院長と、中央病院・金田智放射線科顧問が講演を行いました。

本会の目的は、超音波教育を包括的かつ効率的に行なうこと。医療における超音波検査の役割は極めて大きくなつてきており、設立当初134人だった会員数が、令和7年2月末時点まで355人と2・6倍に増加しました。

超音波検査業務に関連する方々は、ぜひともホームページをご覧いただき、会員登録(無料)をお願いします。

(奈良・中和病院 副医療技術部長 高橋秀二)



鍋の大きさにびっくり!

2月25日、5歳児19人が山形市学校給食センターへ見学に行きました。窓越しに給食を作っている様子や、DVDを見て、給食センターについていろいろなこと

2月13日に整形外科地域連携症例検討会を開催しました。本会は整形外科疾患における病診連携を目的としており、近隣の病院や診療所の医師、理学療法士など多職種53人が参加しました。今回は参加者に治療経過や最終結果が気になる症例を事前に聞き、各症例について当院整形外科の岩部昌平主任診療科長がスライドで説明しました。

「顔の見える、連携目指し整形外科症例検討会

を学んだ子どもたち。調理のシンを見て、目の前にある大きな鍋に驚く様子もありました。「今日の給食は何だろう?」「何を作っているのだろう?」と疑問に思つたことを言葉にして発言する姿も見られました。

調理の中で実際に使用している、おたまやヘラなどの調理器具を持たせてもらうと、あまりの重たさにびっくりする子ども!見たり聞いたり、体験しながら知ることができ、初めての見学がとても貴重な時間となりました。(済生記者 斎藤里奈)

〈栃木〉宇都宮病院



続けて岩部主任診療科長が座長を務め、「顔の見える」連携を目的に、整形外科の各医師から自己紹介と症例発表を行ないました。

参加者からは「希少な症例の発表を聞けて大変勉強になつた」「オペされた先生方の意見が聞けると患者さんに対する意欲も変わる。またぜひ参加したい」など肯定的な意見が多数寄せられました。

(地域連携課 秋山綾香)

行き先を自分で選ぶ 日帰りバス旅行

〈神奈川〉金沢若草園

3月9日、利用者さんが2班に分かれて日帰りバス旅行に出かけました。目的地は複数候補の中からアンケートで決定しました。

「東京スカイツリーとマダム・タッソー東京見学の旅」には利用者さん22人が参加。スカイツリーの展望台から東京の景色を一望し、改めてその高さを実感しました。マダム・タッソー東



京ではオバマ元大統領の執務室で写真撮影。リアルな展示物に驚きながらツアーを楽しんでいました。



中高生を対象とした がん教育の講演

当院は大阪府がん診療拠点病院として、地域の学校に講師を派遣し、がんに関する正しい知識の普及啓発に努めています。

2月5日、がん相談支援センターの渡邊美貴副看護師長（緩和ケア認定看護師）が大阪市立茨

田北中学校2年生と先生約170人を対象に、2月17日、消化器外科の太田秀一副院长

が大阪府立成城高等学校の定時制に通う生徒と先生約50人を対象に、それぞれがん教育の講演を行ないました。



講演内容は、がんについての正しい知識やがん検診の大切さ、緩和ケア、治療法や予防の心得などです。みながら進められ、

専門職としての質の向上を目指し、2月7日に当ステーション内で事例発表会を行ないました。

発表会は今年で3年目。より多くの参加者を募るためオンライン開催とし、46人が参加しました。看護小規模多機能型居宅介護事業所の特徴を生かし、医療的処置のある利用者さんの老

滋賀県済生会訪問看護ステーションサテライト青山
日々のケアを振り返り 看護の質向上を目指す

参加した皆さんは真剣に耳を傾けていました。



健から在宅へスマートに移行ができた事例など、3演題の発表がありました。年々発表内容が充実し、自分たちの看護の振り返りにつながっていると感じます。

（看護師 齋藤京子）

第一部では、地域福祉の向上に貢献した個人・団体、共同募金高額寄付者、共同募金運動の功労者などの感謝状贈呈式が執り行なわれ、当院は赤い羽根

長が参加しました。



地域福祉大会で表彰
（福岡）大牟田病院

募金活動と無料低額診療事業に対する感謝状をいただきました。大牟田市社会福祉協議会・大塚力久会長からの感謝の言葉に、「なでしこプラン」を継続していくことの大切さを強く感じるとともに、より広く発信し、活動を推進していきたいと思いました。困った人に手をさしの



永年勤続、職員表彰を祝福

（福岡）二日市病院

永年勤続表彰の対象者は、本部表彰の30年勤続1人、20年勤続12人、10年勤続16人、支部表彰の功労会員2人、15年勤続24人。大森徹支部長から代表者へ表彰状と記念品が贈られました。職員表彰の受賞者は8人で、壁村哲平院長から表彰状と副賞が贈られ、会場は温かな拍手に包まれました。

企画を担当した職員は「表彰された職員の笑顔を見ることができてうれしかった」とコメントしました。

筆者は今回初めて表彰式に参加。よりよい病院づくりに貢献するためには何ができるのだろうかと改めて考える機会となり



ホットケーキを作つて 優雅なティータイム

（山形）小白川ケアセンター



レートシロップやケーキシロップをかけて食べてもらいました。利用者さんからは「楽しいね」「今日来て良かった」といった声や、「昔、子どものときに妹に小麦粉を溶いて閉炉裏の脇で焼いて食べさせたことがある。涙が出てくる」と昔を懐かしむ声が。午後のひととき、クラシック曲を聞きレモンティーやミルクティーを飲みながら、久しぶりに優雅な気分で過ごしました。

（済生記者 岩城多香代）

新潟病院

救急車の更新を目指し クラファンに挑戦！

当院は救急車の更新を目指し、クラウドファンディングに挑戦します。

当院の救急車は現在、DMA

Tカーとして活躍。新型コロナが確認されたダイヤモンドプリンセス号への派遣や、能登半島地震被災地での支援活動など、D.M.A.T隊員と共に全国を巡ってきました。走行距離は26万キ

ロに達し、老朽化もあり限界に近づいています。

さらに当院は2023年5月に新潟市の新救急拠点病院に選出。救急患者の受け入れに注力しており、円滑な入退院調整に向けた救急車の活用も検討しています。

幅広い世代による健康フェア 多職種による健康フェア

〈愛媛〉西条病院



1月19日、イオンモール新居浜で健康フェアを開催しました。

今回は保健師や管理栄養士など多職種17人が参加。血圧測定、血管年齢測定、健康相談、インボディ測定、ストレスチェック、栄養相談、お薬相談、口腔ケア相談、リハビリスタッフによる認知症予防（コグニサイズ）を実施しました。

筆者は血圧測定を担当。多くの方が血圧が高いことを気にしていたので、生活の中で血圧上昇を抑えることを意識するようアドバイスしました。

こうした現状と今後の利用増を見込み、クラファンへの挑戦が決定。実施期間は4月21日～7月18日の予定です。成功に向けて一生懸命取り組んでいきます。〈経営企画室 古川陽之〉

20～70代の幅広い世代の56人が来場し、アンケートにもたく



停電時の運営方法を検討

2月27日に災害対応訓練を実施し、約40人の職員が参加しました。

災害時に地域医療を支える重要な役割を担う災害拠点病院として、当院では災害時対応能力向上を目指して年1回の災害訓練を計画しています。

今回は台風による停電を想定し、平日の診療時間中に訓練を

者も「腕が曲がらないので食べるのが大変」と驚きを隠せない様子でした。

（済生記者 伝法俊和）

過去には、停電による診療の混乱も経験しており、停電対策についてはある程度検討を重ねて検討しました。今回の訓練では、自家発電機稼働時に使用可能な設備や、制限される診療などを再確認。また、多職種が参加し病院全体で検討することで、これまで気づかなかった課題も明らかになり、今後の対策に生かせる有意義な訓練となりました。

（済生記者 久富大史）

地域の皆が気軽に集い おしゃべりができる場を

〈滋賀〉栗東地域包括支援センター



かれ、そのときしたいことを皆

できるスタイル。今回は12人が参加し「春がきた」「ひな祭り」などの懐かしい歌と一緒に歌つた後、地域支え合い推進員が意した「間違探し」と「あいとうえおカード」を使って楽しみました。

皆が気軽に集い「こっちおいでのここ座り」「元気やつた?久しぶりやな」と声を掛け合う様子も。ゲームをしているときもたわいもない会話に素敵な笑顔をたくさん見ることができました。

（保健師 諸木加寿子）

さんの方が回答してくれました。

アンケートによるとインボディ測定が好評で、「インボディの測定値が役に立った」「初めて測定して大変ありがたかった」などの声をいただきました。

（社会福祉課 森田真子）

小学生が高齢者疑似体験

〈北海道〉小樽老健はまなす

3月12日、当施設の隣にある塩谷小学校で高齢者疑似体験授業を開催しました。4回目の開催となる今回は4年生3人、5年生11人が対象。リハビリテーション課の塩野谷千恵子課長を中心、6人のスタッフが講師を務めました。

約1時間の授業では皆さんに高齢者疑似体験セットを装着してもらい、「右半身が麻痺の状態」という設定で、平地での歩行や階段の昇降、視野・色覚や聴力の感覚、そして麻痺側の手で食べる、食べさせてもらう、飲み込むなどの体験をしてもらいました。



体験した生徒からは「耳に水が入った状態で声が聞こえる」「腰が曲がってしまう」などの声が聞かれました。

今回も新聞社・テレビ局の取材もあり、新聞社・テレビ局の記



者も「腕が曲がらないので食べるのが大変」と驚きを隠せない様子でした。

（済生記者 伝法俊和）

過去には、停電による診療の混乱も経験しており、停電対策についてはある程度検討を重ねてきました。今回の訓練では、自家発電機稼働時に使用可能な設備や、制限される診療などを再確認。また、多職種が参加し病院全体で検討することで、これまで気づかなかった課題も明らかになり、今後の対策に生かせる有意義な訓練となりました。

（済生記者 久富大史）



topics

茨城県精神衛生会議

〈荔城〉社福湯生会病院

神栖済生会病院地域医療連携
会議、2月8日(火)、ノパン

10市の医療機関をはじめ神栖市や消防本部などの関係者を招き、当院から金沢義一院長、西山敬浩副院長や各診療科部長が出席して、総勢115人の盛会となりました。

関係機関の方々との「顔の見え
る関係づくり」により親交を深
めることができました。

（清生記者 江口裕紀）

も「短期間での準備で大変な面はあつたが、今後の医療連携に確実につながると実感できた」との感想が聞かれました。

病院事務の世界を体験 2週間のインターーン

世界を体験

学校横浜校の学生2人のインターンシップを行ないました。事務部のインターーンはコロナ禍以降の取り組みとなりました。事務部各所を巡り、医事、総務から地域交流にわたる多岐の業務を体験。病院がどのように運営されているのかを学ぶ機会となりました。

「いなかつたので、勉強しなければと感じた」「病院の事務といつても、部署ごとに役割が違いい、多くの業務があることを知つた」といった感想が寄せられました。

増元アドバイス 栄養・食生活相談会

婦人保健会議
栄養・食生活相談会

2月20日 イオシ 横井店で「野菜足りますか? 栄養・食生活相談会」を開催。老健シルバーケアまほろばの管理栄養士、中和病院のMSW・看護師と

ともに参加者の悩みに応じた栄養補助食品の説明や試供品の提供などを行ないました。

メインコーナーは市と包括連携協定を結んでいる明治安田による「ベジチェック」。センサーに手をかざすだけで野菜摂取量が測定できるとあって終始列ができ、60人あまりが計測しました。目安となる1日350グラムを摂取できている人は少なく「野菜は加熱する方が量を多く取れますよ」などのアドバイスに熱心に耳を傾けていました。

M S W・看護師による医療相談も好評。病院の無料低額診療や脳卒中相談窓口などを普及啓発するいい機会となりました。



3月2日、西条市SDGs推進協議会主催のアクアフェスティ「キッズおしごとチャレンジ」コーナーに「よいとさ保健室」を出展しました。当日は来場した子どもたちに医療にまつわるさまざまな体験をしてもらいました。



さらには「あのラッピングは難しいよね」とねぎらいの言葉も。利用者さんも「いつも選別しているカカオ豆がチョコソフトクリームになつたんだ」と、自分たちが関わる商品が具体的な形

AED体験では消防士と看護師が現場さながらの実務体験を演出。沐浴体験では人形を赤ちゃんに見立てて、緊張しながらも丁寧に入浴させ、その後の手洗いチエッカーを用いて指導しました。

約120人の保護者からアンケートの回答がありました。若年層が多くつたからか健康を意識している人は少ないようでした。手洗い指導では一人ひとりに水で手洗いをしてもらい、手洗いチエッカーを用いて指導しました。

着替えも順序よく行なっていました。

（検診センター 横井小百合）



D-MATの活動を学ぶ 災害時対応を学ぶ

した。それでも子どもたちの笑顔が見られ、どの保護者も満足そうでした。

（検診センター 横井小百合）

香川県済生会病院

2月20日に中間管理職研修を開催し、30人が参加しました。今回のテーマは「今、地震災害が発生したら行動できますか？災害発生時の初期対応」。香川大学医学部附属病院所属で日本D-MAT隊員の熊野耕看護師が講義を行ないました。

研修の目的は、現行の当院BCPの実効性について問題点を洗い出し、準備段階でのアドバイスを得ること。さらに、当院規模の病院の役割、各部署の役割を再確認できました。

D-MAT活動を映像で紹介し、近隣の介護福祉施設や病院の位置を地図上でチェックすることで災害発生時の被害予想を具体化しました。

参加者からは「D-MAT隊員の活動の様子を見るなどで、災害時に求められることが理解できました。昼夜や休日によって可



自分たちの仕事が形に 新潟なでしこワークス

3月13日、当施設が普段から受託業務でお世話になっているカフェ&チョコレート「ミチココ」の新店舗のプレオープンに招待され、利用者さん、職員の5人で訪問しました。

私たちの仕事を「いつも助かってます」と喜んでいただき、

レベル1 「りょかくき」	
レベル2 「りょかくきのりょきやく」	
レベル3 「りょかくきひやつき かくきゅうひやくにん」	



仲間同士で楽しく学ぶ 誤嚥予防の出前講座

（滋賀）守山市民病院

になるところを見てとても誇らしげでした。

これからも、丁寧な仕事を心掛け、少しずつ受託量も仕事を幅も増やしていきたいと思っています。利用者の皆さんのがいにつながる仕事を続け、地域とつながっていくことを目指します。

（済生記者 小野塚真理子）

2月20日、守山市内の勝部老人クラブの定例会で出前講座を実施しました。摂食嚥下障害看護認定看護師の松永哲人主任が「肺炎にならないための飲み方・食べ方」について講義を行ないました。

この日は46人が参加。実際に飲んだり食べたりして喉の動きを感じてもらいました。

「皆とやることでやる気になつた」という方もいて、仲間同士で「難しい」と笑い合いながら楽しく学んでいただけたのは、地域で行なう出前講座ならではの良さだと感じました。これからも積極的に講座を行なつてきたいと思います。

（済生記者 中嶋元香）



**アルコール専門医療研修
依存症への理解深まる**

2月6日、院内教育委員会と福祉相談室の共催で「アルコール専門医療と一般医療の連携」トリートメントギャップを埋めることをテーマに研修を実施しました。

（医療相談員 成重春奈）

京都済生会病院

やさしい日本語で外国人にも分かりやすく

〈大分〉 日田病院

2月21日、当院会議室で「やさしい日本語教室」を開催しました。「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人や障害者、高齢者でも分かりやすい日本語のことです。3回目の開催となる今回は初の試みとして、日田市内の介護施設で働く施設職員・ケアマネジャーが声をかけ、院外12人・院内11人、計23人が参加しました。

外部から招いた講師からは、文章を短く区切ること、端的な文章にすることが必要であるとの振り返りがありました。「実際に外国人労働者と共に施設で働いているので、やさしい日本語を知ることができてよかったです」と話す参加者も。今後もやさしい日本語の周知、活用を行なっていきます。

（医療相談員 成重春奈）

員、看護師が結果の説明後、普段の生活で困っていることなどを聞き、アドバイスやお話をしました。

参加者からは「いろいろ相談

に乗つてもらえてよかったです」「体の状態が分かった。また測りに来たい」などの感想がありました。

（済生記者 濱本佳代）

将来の妊娠を考えて 正しい知識と健康管理を

〈東京〉 中央病院

ありました。
（福祉相談室係長 田島佳織）



3月15日、港区立産業振興センター大文化祭「みな・さんフェス・2025」に当院も参加しました。同センターで活動する会員企業・クリエイターと近隣地域の企業・団体の活動発表や交流の場で、45社が出展。来場者は約400人にのぼりました。地域企業・団体・住民との交流や、事業者間の新たなビジネスチャンスの創出を目指して企画されています。

当院は産婦人科がヘルスケア領域で注力している「ブレコンセプションケア」をテーマに展開。同科の柏原美季医師が大ホールで講演し、ブースではブレコンセプションケア外来の周知を行ないました。

質疑応答では「治療支援アプリの活用」「離脱症状への対応」など実践的な質問があり、受講後のアンケートでは「依存症について理解が深まった」「患者対応に悩むこともあったのですが参考になつた」といった回答が

（事務次長代理 町田洋治）



この取り組みは、入院生活を送る患者さんにリハビリの一環として黒豆の収穫を手伝っていただき、自然と触れ合う喜びを感じてもらいたいという思いから始まりました。

昨年10月に入院患者さん8人と職員有志で収穫した黒豆を使い、委託業者の日清医療食品の協力のもと約200個のマフィンを製作。ふつくらと炊き上げた黒豆とマフィンの甘さが調和し、とても優しい味に仕上がりました。

黒豆マフィンをお届け

〈岡山〉 吉備病院

バレンタインデーの2月14日、職員有志が病院の裏庭で育てた黒豆を使用した「黒豆マフィン」を入院患者さん、透析患者さん、そして職員の皆さんにお届けしました。

この取り組みは、入院生活を送る患者さんにリハビリの一環として黒豆の収穫を手伝っていただき、自然と触れ合う喜びを感じてもらいたいという思いから始まりました。

昨年10月に入院患者さん8人と職員有志で収穫した黒豆を使い、委託業者の日清医療食品の協力のもと約200個のマフィンを製作。ふつくらと炊き上げた黒豆とマフィンの甘さが調和し、とても優しい味に仕上がり



体組成計で健康づくりのきっかけを

〈愛媛〉 今治老健希望の園



院長からのサプライズプレゼントとして心を込めてお届けし、皆さんから「とても美味しいかった」「素敵なお土産をありがとうございました」という声をいただきました。

（済生記者 難波美紀）

3月1日、当園主催の「健康相談会」を開催し、利用者さんのご家族や地域の方々9人が来園しました。

本年度当園では新たに体組成計を導入し、リハビリや生活指導に役立てています。内臓脂肪

や筋肉量、左右のバランスなどが分かるため、利用者さんからは「目標を立てて頑張っている」「リハビリのモチベーションが上がった」と好評を得ています。今回の相談会でも参加者に体組成計を体験してもらいました。そのほかにも血圧測定や問診、測定をした後にリハビリ



〈大阪〉泉尾特養大正園

介護生産性向上モデル認定

当園では、大阪府主催の生産性向上伴走研修に5人が参加し、全ての研修を経て3月11日に「大阪府介護生産性向上モデル事業所」の認定を受けました。この認定を受けられるのは大阪府内でわずか20施設のみ。研修では、介護ロボット・ICT導入における課題解決の重要性を学び、特に「準備の大切さや小さなPDCAサイクルを止めないことの重要性」を痛感しました。

学びを生かして全室（108床）の見守り支援機器やインカムを導入し、利用者さんの生活



てつだいたい！

長野保育園

年長児が2人1組となり、3歳未満児クラスで一日一緒に過ごすイベントが1月20日から始まりました。「今日の手伝いたいは誰？」と朝から子どもたちが確認し合いました。

エプロンを身に着けて小さいくラスへと向かいます。そして一緒に遊び、身の回りのお手伝いをします。年長児は戸惑いながらも優しい気持ちで関わわり、「トントンしたら寝てくれた」「つないだ手が小さかった」など思いやりのあるつぶやきが聞かれました。

小さい子は年上の兄さん・お姉さんを見て、真似をしながらおもちゃの使い方や遊び方、着替えや手洗いなどの生活習慣まで自然と学ぶことができます。

このような異年齢の関わりを大切にしながら、社会性の発達や好奇心へとつなげていきたいと思います。

（保育士 大高真希）

小児科病棟に壁一面のホスピタルアートが完成

約半年の制作期間を経て、2月20日に小児科病棟のプレイルームと処置室のホスピタルアートが完成しました。

院内保育所のホスピタルアートに続き、今回も京都芸術大学の学生たちが制作。子どもたちの診察や処置の緊張感を和らげ、



滋賀県病院

（経営企画課 鵜飼健成）

安心して治療を受けられる空間をアートによって演出する試みです。

プレイルームには、シルエットや图形を使った「パズルアート」が描かれ、子どもたちの想像力を刺激します。処置室には、滋賀県の名物をモチーフにした独自のキャラクターが壁一面に配置。隠れたキャラクターを探す楽しみによって、治療の緊張感を和らげる効果が期待されています。

小児科の伊藤英介医師は「壁のイラストが子どもたちとの会話のきっかけとなり、より良い関係を築くことができそうだ」と話しました。

認知症ケア向上のための研修を2月10日、12日、18日の3日間、職員に向けて開催しました。54人の職員が参加し、認知症ケア向上委員会で作成した「認知症ケアマニュアル」を基に、講義やグループワークで学びを深めました。

グループワークでの事例検討では、マニュアルに沿ったケア

利用者の安心のために統一した認知症ケアを

〈滋賀〉特養淡海荘

の質向上と職員の負担軽減を実感しています。最後に他施設からの施設見学も随時受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

（済生記者 德原健治）



研修は全職員のうち三分の二が受講。参加者からは「これからは施設として統一した認知症ケアをしていきたい」という声が聞かれました。



を基本に個々のBPSDを的確に把握し、根拠に基づくケアの実践を多職種で共有する機会となりました。

研修は、入居者さんのプライバシー保護と感染症拡大防止対策として実施。各居室にスライドドアを設置することで、個々のプライバシーを確保できるだけでなく、感染症対策として部屋の分離が可能になりました。皆さんのが当園で安心して生活できる環境を整えました。また、スライドドアは広く開閉するので、車椅子での居室への出入りもスムーズになりました。

当園では、今後も入居者さんの生活の質を向上させるため、さまざまな改善策を模索し続け、入居者の皆さんのが安全を第一に考えたサービスの提供を目指します。

スライドドアで安心・安全

〈新潟〉特養康和園

当園の全ての居室の出入口にスライドドアを設置する改修工事を行ない、3月25日に完了



topics

子どもたちにバスケット 楽しさを知ってほしい

〔富山〕幼保連携型認定
「Jども園」なでしJ保育園

その楽しさを知り、興味を持つ
てもらおうと、2023年か
ら日本バスケットボール協会を
協賛している三井住友信託銀行
が、ミニゴールとボールを幼稚
園・保育園に寄贈するプロジェ
クトを行なっています。

三井住友信託銀行からミニ
バスケットゴール1基と
AKATSUKI JAPAN
ミニボール5個が寄贈され、2
月21日 当園遊戯室での贈呈式
に年長児23人が参加しました。
バスケは他のスポーツと比べ、
未就学児が体験できる機会があ
まりありません。少しでも多く
の子どもたちにバスケに触れて



〈東京〉中央病院 特別支援学校から 初めての実習生受け入れ

2月18日から4月間、都立港
特別支援学校の生徒一人が当院
で現場実習を行ないました。最
近の学校教育は社会現場での実

〈群馬〉前橋病院 DMATカー納車式で クラファンが完結！

2月26日、クラウドファンデ
イングの寄付金で購入した新型
の救急搬送車（DMATカー）
の納車式を行ないました。当日

新車両は最新装備が搭載さ
れ、DMAT隊長は「今後は
長距離でも安全に被災地で患者
さんを搬送できる」とコメント。
DMAT隊によるデモ走行も
行なわれ、その機能性と使いや
すさを確認しました。

メディアも多数来院し、大盛
況の中で式が行なわれ、スタッ
フ一同、大変うれしく思います。
これからも地域に貢献する医療、
社会福祉事業に力を入れていき
ます。

（済生記者 川上佳代）

フ一同、大変うれしく思います。
これからも地域に貢献する医療、
社会福祉事業に力を入れていき
ます。

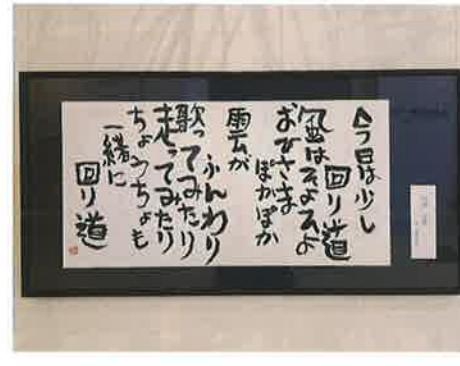
〈神奈川〉横浜市東部病院 「私たちの書道展」開催

1月21日～2月21日、障害者

スポーツ文化センターラボール
上大岡と当院の共催で「私たち
の書道展」を3階多目的ホール
前ギャラリーで行ないました。
ラボール上大岡との共催展示
は今年で3年目。装飾は今回も
いけばな草月流の有志「FMU
Flower Meet You～あなた
に寄り添う花～」の皆さんに、
展示されていたお正月作品をす
てきにアレンジしてもらいました。
展示されているのは障害のあ
る方の書の作品で、詩は書を指
導した居原田礼子さんがそれぞ
れの方をイメージして作ったも
の。前期と後期で作品を入れ替
え、計10点を展示しました。

詩の内容と書かれた文字そ
のから伝わるあたたかさが心
に広がります。近くを通る人々
も足を止め、じっくりと作品を
鑑賞していました。

（済生記者 荒木愛美）



セミナーで認知症解説 当日飛び入り参加も

2月23日、済生会小樽病院地
域共生健康セミナー第2弾「最
近の認知症の診断や治療につい



て」を、ウイングベイ小樽5番
街1階（済生会ビル）の済
生会ウエルネスリハディサービス「ライヴリー」で開催しま
した。講師は当院脳神経内科部長
の林貴士医師が務めました。
林医師は認知症の発症原因や
症状、最近の治療法まで詳しく
解説。難しいテーマで、その場
では質問する参加者がいません
でしたが、講演会終了後に林医
師にこつこつ質問する姿が見ら
れました。

参加者は21人。大型ショッピ
ングセンター内での開催という
こともあり、うち3人は会場前
の案内を見て当日飛び入りで参
加してくれました。3月30日に
は緩和ケアをテーマに開催しま
す。（広報室長 松尾覚志）



topics



ました。優良表彰として、大阪府知事賞、大阪府看護協会長賞、学校長賞を3人が受賞しました。戸田常紀校長は式辞の中で「看護師として、人として成長していくください」と期待を寄せた言葉を述べました。来賓の大坂府済生会・讃岐富男常務理事からは力強い激励の祝辞を、済生会の炭谷茂理事長からは心温まるねぎらいと応援の言葉をビデオメッセージでいただきました。

最後に卒業生代表が答辭を述べ、38人は目を潤ませながらも



済生会の理念を広く知っていただくために

〈富山〉高岡病院

(専任教員 森谷幸子)

笑顔で退場し、式は終了。今後は人とのつながりを大切に、自分が目指す看護の道を一步づつ進んでいくことを教職員一同、心から願っています。

（専任教員 森谷幸子）

筆者は公益社団法人コスモス 成年後見サポートセンターの依頼を受け、2月25日に富山県民会館で講演を行ないました。当初は社会保障制度全般について講演する予定でしたが、生活保護、無料低額診療サービスなどについて解説していました。

（済生記者 原 衣里奈）



〇×形式でフットケア

〈埼玉〉川口総合病院

(医療社会事業課 MSW 若山優子)

2月10日、フットケアの日にちなんで皮膚科主任部長・高山かおる先生による「フットケアQ&A動画」を当院インスタグラムに投稿しました。

「巻き爪は深爪すれば治る?」「足の指を広げるストレッチで姿勢は良くなる?」といった疑問に、高山先生が〇×形式で分かりやすく解説しています。

（済生記者 原 衣里奈）

く、診断や治療が遅れることが少なくありません。

この動画が、日頃から自身の足をケアするきっかけになれば幸いです。今後も、地域の皆さんへの健康維持や疾患予防に役立つ情報を発信してまいります。ぜひ動画もご覧ください!



3月5日、70期生38人が卒業式を迎えた。多くの来賓の方々が出席し、保護者に温かく見守られながらの卒業式となりました。

38人が新たな門出

〈大阪〉中津看護専門学校

(済生記者 米井 悠)

「ここプラン」での活躍を知ることができた」といった感想があり、済生会の理念を深く理解していました。ただけたことがとてもうれしい評価が高まり、採用面でも大きな影響を与えることが期待されます。



済生会フェア3年連続開催4000人超

京都済生会病院

一昨年、昨年に続き「けんこうとぼうさい」をテーマに3月8日、済生会フェアを開催しました。今回も企業や地域の団体との連携型イベントとして企画し、昨年を超える4000人以上の市民が来場しました。

市民健康講座では、当院医師3人がそれぞれ「働き者の『腎臓』に感謝」「子どもの急な体調不良」「外科手術の変遷」をテーマに講演しました。

看護部によるACP啓発の劇やDr.Kのストリートピアノには立ち見が出るほどの大盛況で、社会福祉協議会とのフードパントリー、大人気の緊急

（済生記者 白須優也）

車両との記念撮影、子育て支援団体のマルシェ、その他さまざまな企業の出展が目白押し。内視鏡・腹腔鏡体験、DMAや薬剤部などの各種体験、今回初出展のキッチンカーなど、合計29ブースを幅広い年齢の方々が楽しみました。

（済生記者 白須優也）

評価されたものです。

福本誠人事部長は「平成22年に『多様な働き方実現モデル病院第1号』に選定されてから15年間の取り組みが評価されてうれしい」とコメント。この受賞により、当院が仕事と生活の調和を図る職場環境を提供しているという評価が高まり、採用面でも大きな影響を与えることが期待されます。



世界3位（国内1位）になつたことが治験責任医師向けのニュースレターで報告されました。

A社の治験責任医師会議では、被験者の患者さんに真摯に寄り添い、承認間近の最新治療の有用性と安全性の正確なデータを報告ください。

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。

（埼玉・鴻巣病院 濱口医師）

夕を積む際の心構えについて
していきます」と意欲を語ります。
A社の治験責任医師会議で
夕を積む際の心構えについて
して講演しました。
は、被験者の患者さんに真摯に
寄り添い、承認間近の最新治療
の有用性と安全性の正確なデータを
報告ください。

（治験管理室 栗原茂仁）

眠っていたピアノが……

（埼玉）鴻巣病院の病棟には平成7年に寄贈されたピアノがあり、ここ7～8年間使用されず未調律となっていました。その状態に気付いた門野淳子副院長の提案で、昨年11月と12月に調律を行いました。1回の調律作業に3時間近くかかるのですが、きれいに整えられていくピアノはまるで生まれ変わったようでした。



★すてきな取り組みですね！ 音楽の力が、患者さんやスタッフの心を優しく包みますように。

（本部広報課 杉山菜央）

（埼玉・鴻巣病院 濱口医師）
2月15・16日に愛媛県で行なわれた済生会学会に参加し、「LGBTQが働きやすい環境づくり、全国初！」埼玉県の取り組みへの参加」について発表しました。聴講者からは「参考にしたい」との声をいただき、今後の展開についての質問も寄せられ、多くの「気づき」を得る機会となりました。

21日には門野副院長の演奏で4曲が披露されました。ピアノが分解された状態から興味深そうに見ていた患者さんたちは演奏会が開催されると大変喜び、スタッフからも感動の声が上がりました。

病棟内は長期入院の方も多く、ピアノの調律と演奏は患者さんに楽しめを提供することにつながりました。今後は定期的に演奏会を開催し、多くの「気づき」を得る機会となりました。

学会後の懇親会や2次会では、他部署の職員と郷土料理を味わいながら楽しく交流できました。空き時間には、臨床検査科の関谷晃一副部長、人事・総務課の鈴木翔真さんと松山城を訪れ、壮大な石垣や天守の美しさに感動。さらに「姫子地鶏」の料理を堪能し、歴史ある道後温泉で心身を癒しました。



（埼玉・川口総合病院 人事・総務課 本橋和宏）
★まさに「済生に、穎智集いし伊予の春」ですね。この句は28ページ写真を参照してください。



ウツチヤンからの贈り物

本誌昨年11月号に掲載された（広島）老健はまな荘の「昭和レトロコーナー」の記事を読んでくれた済生会本部給務部厚生課のウツチヤンこと杉浦智子さんから、買い物かごの寄贈がありました。



このかごは昭和の着物の端切れや和紙などを使って杉浦さん本人が制作した一閑張りのもの。昭和をイメージしたイラスト、広島の厳島神社や鯉（カープ）の図柄も入っています。

また、多趣味な杉浦さんは三つのバンドを掛け持ちしています。本部で見る彼女は大人しい（？）女性というイメージですが、アフロ三昧線バンドのボーカルを務めプロ級の歌唱力を披露しています。歌声を聴いてみたい方は、YouTubeで

（本部厚生課 杉浦智子）
★どくも。声が大きく派手好きなウツチヤンです。趣味を広く浅く樂しつけます。



（本部厚生課 佐藤 聰）
認定看護師を目指します。

（東京）向島病院の患者さんは高齢の方が多く、入退院を繰り返していました。もうと私にできること

（東京・向島病院 摂食嚥下障害）
力不足を実感し……

（東京）向島病院の患者さんは高齢の方が多く、入退院を繰り返していました。もうと私にできること

（東京・向島病院 摂食嚥下障害）
力不足を実感し……

（東京）向島病院の患者さんは高齢の方が多く、入退院を繰り返していました。もうと私にできること

（東京）向島病院の患者さんは高齢の方多く、入退院を繰り返していました。もうと私にできること

（東京）向島病院の

これからは廃棄する材木は処分するのではなく、資源として活用することに取り組みたいと思います。

(福岡・飯塚嘉穂病院)

★伐採木で椅子を作ったり、キャンプの焚き火にしたりとワクワクするような活用方法がありそうです!

(メディカル・リーフ 岩谷純一)

参考 久良知範幸

ファンラン完走で達成感!



3月9日に静岡市で開催された「静岡マラソン」に(静岡)特養小鹿なでしこ苑の職員も参加。フルマラソンとファンラン合わせて約1万4000人が駿府路を駆け抜けました。

私は数年前にフルマラソンにチャレンジしたもの、途中でバスに乗りました。

私は数年前にフルマラソンにチャレンジしたもの、途中でバスに乗りました。私は数年前にフルマラソンにチャレンジしたもの、途中でバスに乗りました。

せられた苦い記憶が……。今年はファンラン(11・6キロ)を頑張って走りました。フルマラソンのスタートから20分後、静岡県庁前にてファンランがスタート!

初めから自分のペースで走っていましたが、最終給水所を少し走ったところで他ランナーと接触し転倒……。それでも何とか最後まで走り切ることができ、何とも言えない達成感を感じました! もう数年はファンランで走り、いずれはフルマラソンを完走したいです。

(静岡・特養小鹿なでしこ苑)

子どもたちのところ、マラソン大会でいつもかにかびり走者になっていて焦った思い出が。リベンジしたい!

(メディカル・リーフ 坂本陽子)



済生会

明治44年2月
11日、明治天皇

は、時の総理大

臣桂太郎を召さ

れで「恵まれない人々のために施薬

救療による済生の道を広めるよう

に」との済生誓語に添えてお手元金

150万円を下賜された。桂総理は

この御下賜金を基金として全国の官

民から寄付金を募つて同年5月30日

財團済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済

情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながら

も、本会は「施薬救療」という創立

の精神を理念とし保健・医療・福祉

の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の

指定、同27年に社会福祉法人の認可

を受け、現在、社会福祉法人財團済

生会となつてゐる。

本部	東京	83	総裁	秋篠宮皇嗣殿下
病院			会長	潮谷義子
診療所	20		理事長	炭谷茂
介護医療院	2			
介護老人保健施設	28			
救護施設	1			
児童福祉施設	25			
老人福祉施設	119			
看護師養成施設	7			
訪問看護ステーション	9			
地域包括支援センター	31	66		
その他	9			
合計	405	(数字は令和5年度)		
		さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。		
		職員数は全国で約6万6000人。		

済生

[令和7年4月号]
THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年4月10日発行

通巻第1150号(第101巻第4号)

編集兼
発行人

炭谷 茂

発行所

社会福祉法人財團済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

TEL: 03-3454-3311(代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所

株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

◎社会福祉法人財團済生会

なでしこ
ファーム

熊本、松山から「愛」をお届けします!

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」
熊本県熊本市南区内田町3560-1 Tel: 096-223-3428

松山ワークステーション「なでしこ」
愛媛県松山市東山町143番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。

熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションがお店し、済生会のホームページ上で営業中です。

商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。

どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。店主敬白

◆クッキー(左上から時計回りにブレンドマーブル、レーズン、紅茶)

♥ギフトボックス(クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ)

♣くまドレース(くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレース)

♦元祖クッキー(片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気)

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>

ホームページには、他にも魅
力いっぱいの商品が。工房で、
お店で活躍するスタッフの様
子も。ぜひご覧ください。

SAISEI | 2025 APRIL 94

その一瞬の あなたの感動が、

2026年・2027年版
清生会なでしこカレンダーの写真募集

- ★2年に一度のチャンス!! 上期下期各一枚、2年分の計4枚
- ★2年ごとに選定し、毎年配付するカレンダーのデザインに使用している「なでしこアーモ
- ★入選者には清生会のお菓子セットを進呈します。



みんなの感動に。

可憐ななでしこの無垢なすがたから、
ハッとさせられる斬新な視点まで。
あなたの捉えた最高の一瞬を、ぜひお寄せください。

お問い合わせ・提出先 清生会本部 広報課 koho@saiseikai.or.jp

締め切り 令和7年7月31日(木) 必着



応募用紙



募集要項

[写真の仕様] ●題材はなでしこの花。自生・栽培種のいずれも可。●デジタルデータでサイズは1MB以上、正確なピントと露出補正で撮影してください。●構図は横向き。●写真に撮影日が入っているものは不可。**[応募資格]** ●清生会職員(アルバイト含む)、職員家族、清生会で活動するボランティア。**[応募方法]** ●メールにて「写真データ」と「応募用紙」をご提出ください。**[応募方法]** ●応募点数は1人1点まで。●写真のデータ量が大きすぎるとメール添付で送信できない場合があります。なでしこクラウドや外部ストレージをご使用ください。●応募作品は採用結果に関わらず、法人ホームページやパンフレット等に使う可能性があります。

清生会となでしこ

初代総裁・伏見宮貞愛親王が創立当時、「撫子の歌」を清生会の事業に寄せられたのにちなみ、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが清生会の紋章になっている。